

国際仏教学大学院大学研究紀要  
第 26 号 (令和 4 年)

Journal of the International College  
for Postgraduate Buddhist Studies  
Vol. XXVI, 2022

ロシアに所蔵される仏典写本・版本の  
コレクション概観  
— 目録を中心として —

末 木 康 弘



# ロシアに所蔵される 仏典写本・版本のコレクション概観 — 目録を中心として —

末木 康弘

仏典写本・版本はアジア圏のみならず、フランス、イギリス、ドイツをはじめとする欧米諸国やロシアにも多数所蔵され、それら所蔵機関により多くの目録、解題等が刊行されているが、その全容を知ることが容易でない。

本稿は、仏典研究の一助となるべく、18 世紀初頭より東洋語資料の収集が開始されたロシアに所蔵される仏典写本・版本収集の歴史を辿り、コレクションの概要を示して、目録と主要な書誌学的研究について検討する。また、特定のコレクションやコレクター、及び目録編纂者や関連する人物について特筆すべき事柄があれば適宜言及する。

本文にて引用する文献には、冒頭に文献番号を付与している。書誌情報におけるキリル文字の表記については、アメリカ図書館協会・米国議会図書館の翻字法を適用しているが<sup>1</sup>、人名や機関名に言及する場合は、英語で使用されている綴りとした。ロシア語文献に英文タイトルが表記されていない場合は、角括弧に英文タイトルを補記した。インターネット上に公開されている資料・情報については、URL を表記した。筆者が信賀加奈子（仏教書誌研究プロジェクト研究員）の協力を得て編纂する "Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the Viewpoint of Buddhist philology" (以下、BSBS と略す。) の version 3.0 (2022 年 4 月公開予定) 収録資料・情報については、その参照番号を示すとともに、本学附属図書

---

<sup>1</sup> フォントの関係で、一部特殊記号を省略した。

館が所蔵する図書については請求記号を略号 Lib.のもとに合わせて表示した。地名のサンクトペテルブルクは時代により、ペトログラード、レニングラードとも呼ばれているが、本稿では便宜上サンクトペテルブルクを統一して使用した。大学名もこれに準ずる。国名もロシアで統一した。

現在までロシアにおいて仏典写本・版本の所蔵が確認され、目録、解題等の利用ツールが提供されている機関は、管見の限り次の通りである。

サンクトペテルブルクには、ロシア科学アカデミー・東洋写本研究所 (Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences (IOMRAS))、ロシア国立図書館 (National Library of Russia)、サンクトペテルブルク国立大学図書館 (St. Petersburg University Library)、エルミタージュ美術館 (Hermitage Museum)、国立宗教史博物館 (State Museum of the History of Religion) の 5 機関があり、ブリヤート共和国の首都ウラン・ウデには、ロシア科学アカデミーシベリア支局・モンゴル学仏教学チベット学研究所 (Institute for Mongolian, Buddhist and Tibetan Studies, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences)、カルムイク共和国の首都エリスタには、ロシア科学アカデミー・カルムイク科学研究センター (Kalmyk Scientific Center of the Russian Academy of Sciences)、タタールスタン共和国の首都カザンにはタタールスタン共和国国立公文書館 (State Archive of the Republic of Tatarstan)、トゥヴァ共和国の首都クズルには、トゥヴァ共和国国立博物館 (National Museum of the Republic of Tuva) がある。

その他、かつてロシアの一部であった周辺国の 3 機関にも仏典写本・版本が所蔵されている。

#### 1. ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 (Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences (IOMRAS))

ロシア科学アカデミー東洋写本研究所（以下、東洋写本研究所と略す。）は、1818 年創立のアジア博物館 (Asiatic Museum) に始まる。アジア博物館は、東洋語資料の展示と利用のため、1724 年創立のロシア科学アカデミー内に組織され、ピョートル大帝 (1672-1725) が 1714 年に設立

した博物館、Kunstkamera（現在の Museum of Anthropology and Ethnography）の建物の一区画に置かれ、Kunstkamera 所蔵の東洋語写本・版本はすべてアジア博物館に移された。1930年に "Institute of Oriental Studies" に改組され、1960年に "Institute of the Peoples of Asia"<sup>2</sup>と改称、1968年には旧称の研究所名に戻され、2007年に現在の "Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences（略称 IOMRAS, ロシア語では Istitut vostochnykh rukopisei, Rossiiskaia Akademiia Nauk. 略称 IVRRAN）" となった。本研究所の歴史の詳細については、Website を参照されたい<sup>3</sup>。

アジア博物館は 1873 年 8 月イギリス、ケンブリッジ大学アラビア学教授 William Wright (1830-1889) より 6 点のネパール系サンスクリット語仏典写本の寄贈を受けた<sup>4</sup>。これは、William の弟、Daniel Wright (1833-1902) が 1866 年から 1876 年までカトマンドウの British Residency の外科医として駐在していた時期に収集した写本の一部であった<sup>5</sup>。Sergey Fyodorovich Oldenburg (1863-1934)<sup>6</sup>は、1890 年に William Wright によりアジア博物館と

<sup>2</sup> この名称は Website に記述されていないが、本稿では護雅夫と高田時雄の報告に基づく。Mori 1966, Takata 2012, p. 142.

<sup>3</sup> [http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_content&task=view&id=46&Itemid=82](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_content&task=view&id=46&Itemid=82)

<sup>4</sup> 文献番号 1-001, p. 329.

<sup>5</sup> D. Wright 収集写本の大多数はケンブリッジ大学へ送付された。その他への送付先にロシア帝国アカデミーとサンクトペテルブルク大学の両図書館をはじめとする 5 機関があることを Wright は報告している。Wright 1877, p. 31, 注 1. Wright は、1868-1869 年にもドイツの Königliche Bibliothek zu Berlin にサンスクリット語写本をネパールから送付している。Klatt 2016, p. 17. イギリスにおけるネパールでの写本収集は、Brian Houghton Hodgson (1800-1894) により 1820 年代から開始され、D. Wright、そして 1880 年代の C. Bendall (1856-1906) へと継承された。Bendall は "Bibliotheca Buddhica" の第 1 冊として "Çikshāsamuccaya" (1897-1902 年) を出版したが、同氏が底本としたのは主に D. Wright 収集写本であった。同書, p. xxiv.

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1592](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1592)

<sup>6</sup> Oldenburg は 1903 年にロシア科学アカデミー会員となり、翌 1904 年常任書記に選出され 1929 年まで学術行政の中心的な役割を果たし、Th. Stcherbatsky と共に "Bibliotheca Buddhica" の刊行を推進した。また、Salemann の後継として 1916 年より逝去する 1934 年まで第 7 代アジア博物館館長 (1930-1934 年は東洋学研

サンクトペテルブルク大学図書館に寄贈された4点、計10点の写本のリストを出版している<sup>7</sup>。Oldenburg は文末で、アジア博物館には、文献番号1-002にて言及する"Saddharmapundarikasūtra"の写本が所蔵されていることも指摘し、早期に研究されることを切望した。

20世紀初頭、アジア博物館では所蔵する写本の目録を編纂する事業が企画された。インド語写本については、館長でイラン語学者、バルト・ドイツ人の Carl Hermann Salemann (Reval 1849-1916 St. Petersburg)<sup>8</sup>の意向で、シュトラスブルク大学の Ernst Leumann (1859-1931) の薫陶を受けて帰国した、N. D. Mironov (1880-1936)<sup>9</sup>が非常勤で1903年より目録編纂の任に就き<sup>10</sup>、1914年にインド語写本目録第1冊を出版した。ネパール系サンスクリット語仏典写本とパーリ語写本は、この目録に収録されている。

#### 1-001.

Katalog" indiškikh" rukopisei [Catalogue of the Indian manuscripts], 1. Sostavil" N. D. Mironov". Petrograd": Tipografiia Imperatorskoï Akademii Nauk", 1914. 360 p. (Catalogus codicum manu scriptorum Indicorum qui in Academiae Imperialis Scientiarum Petropolitanae Museo Asiatico asservantur, 1)

Reprinted in New Delhi, 1984?

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=3023](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=3023)

(BSBS B1.2.1.12.1.006, Lib., R929.8100/MI)

本目録では、全466点の写本がテキストの内容により13種に分類され、仏典は分類項目XI: Baudha、Nos. 414-430に収録されている。文字の種別、

---

究所所長)として、ロシアにおける激動の時代を研究者と実務家として尽力した。同氏はロシア革命後、1919年に一時的に拘束されている。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M1.20.012を参照。

<sup>7</sup> Ol'denburg 1890.

<sup>8</sup> SalemannはW. Radloff (1837-1918)の後継として1890-1916年まで第6代館長を務めた。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M5.2.001を参照。

<sup>9</sup> Mironovの業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M1.20.015を参照。

<sup>10</sup> Ostrovskaia 2015, p. 153-154.

写本の形状、筆写年代、テキストの一部とコロフォンの転記、来歴に関する諸事項、当該写本に関連する他の写本目録番号や研究論著の書誌等が記述された目録である。来歴に関連して、旧写本番号は、冒頭が略号で表記されているが、凡例がないので本稿にて後述する。

所蔵資料には、1903年ダライラマ13世（1876-1933）から S. F. Oldenburg に寄贈された写本（Nos. 420-423）がある<sup>11</sup>。これらの写本については松田和信の論考があり、Mironov が同定できなかった No. 421 の12葉は "Yogācārabhūmi"（瑜伽師地論）の "Vinīscayasamgrahaṇī"（撰決択分）の一部分であることを明らかにし、さらに「本地分」の原語が漢訳語との対応により、'Maulī bhūmiḥ' であることを確認した<sup>12</sup>。『瑜伽師地論』は本地、撰決択、撰積、撰異門、撰事の五分で構成されているが、「本地」の原語が不明であったため貴重な報告となった。Mironov は No. 422 について "Buddhāvataṃsakasūtra" と記述するのみであるが、同氏はこの断簡が漢訳『華嚴経』『普賢菩薩行品』の末尾であることを指摘する。さらに、本写本はネパール系写本であるが、写本の性格としては中央アジア系写本に近いかもしれない、と記述している<sup>13</sup>。

ロシア・インド学仏教学創始者の一人、Th. Stcherbatsky（1866-1942）<sup>14</sup> は、1910年から1911年までインドに派遣された。その目的は、インドに関する知識の習得の他、インドに遺る仏教の学術的な文献（buddhiskoi nauchnoi literary）、及びそれに関連する婆羅門教とジャイナ教のテキストを探索すること、そしてインドにおけるサンスクリットの言語と文献の研究状況に精通することであった<sup>15</sup>。Stcherbatskyは、ラージャスターン

<sup>11</sup> 資料 No. 1-001, p. 330, 注 1.

<sup>12</sup> Matsuda 1988, p. 16-18. 同氏にはネパール・カトマンドゥの National Archives 所蔵の『解深密経』を引用する『撰決択分』の写本断片の研究もある。Matsuda 1995.

<sup>13</sup> Matsuda 1988, p. 19.

<sup>14</sup> Stcherbatsky は、ドイツ軍によるレニングラード包囲戦から避難したカザフスタン北部のボロヴォエで 1942 年 3 月 18 日に逝去した。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.013 を参照。

<sup>15</sup> Stcherbatsky 1912, p. 70.

州のジャイサルメール（Jaisalmer）のジャイナ教寺院に、論理学関係写本が所蔵されている情報を得たので、同地の訪問を計画した。しかし、ボンベイでの長期滞在を余儀なくされ、当初の調査旅行の予定を大幅に変更せざるを得なかった。ジャイサルメールを訪問するためには砂漠を通る過酷な旅となり、2カ月程を要するため、写本の複写は、政府により委託されたという措置を講じることに成功し、ジャイサルメール行きを回避することができた<sup>16</sup>。写本の複写本は、No. 425: "Tattvasamgraha-pañjikā"（真実綱要細注）<sup>17</sup>とNo. 426: "Dharmottaratippanaka"<sup>18</sup>であり、アジア博物館での受入れは1911年と記載されている。Stcherbatsky は、プーナの Deccan College Library においても Nyāna 学派の Udayana (c.975-1050) 作の13世紀写本 "Nyāyavārtikatātparyāṭikāparisuddhi" を写真撮影したが<sup>19</sup>、Mironov 目録と後述する文献番号1-002の簡略目録には収録されていない。Mironov も論理学関係の写本を入手すべく、1909年と1910年に Deccan College Library に写本の複写を注文している<sup>20</sup>。No. 424-3a: "Nyāyapraveśaka"（因明入正理論）<sup>21</sup>とNo. 424-3b: "Nyāyapraveśakatīkā"<sup>22</sup>である。同図書館所蔵写本の複写本には、他にNo. 424-1, -2, -4, -5の4点があり、アジア博物館での受入れはすべて1912年と記載されている。

パリ語写本は、Nos. 431-458に収録されている。これは、人類学民俗学博物館（Museum of Anthropology and Ethnography = Kunstkamera）<sup>23</sup>所属のN.

<sup>16</sup> Stcherbatsky 1912, p. 71.

<sup>17</sup> 『梵語仏典の研究』（A descriptive bibliography of the Sanskrit Buddhist literature）, 3 : 論書篇（Abhidharma, Madhyamaka, Yogācāra, Buddhist epistemology and logic）. 京都 : 平楽寺書店, 1990. p. 451. 「TSPd: Museo Asiatico (Mironov No. 425)」

<sup>18</sup> 同書, p. 435. 「DhTe: Museo Asiatico (Mironov No. 426)」

<sup>19</sup> Stcherbatsky 1912, p. 72.

<sup>20</sup> Mironov 1931, p. 1-2.

<sup>21</sup> 前掲『梵語仏典の研究』, p. 412. 「Npc: Museo Asiatico (Mironov No. 424, 3a; Mironov 本, Intro. pp. 12-13). No. 738 of Deccan College Library 1875-76 の写し。」

<sup>22</sup> 同書, p. 414. 「Npc: Museo Asiatico (Mironov No. 424, 3b; Mironov 本, Intro. pp. 12-13). No. 738 of Deccan College Library 1875-76 の写し。」

<sup>23</sup> 当時の館長は、ウイグル語訳『金光明経』の研究等で著名な W. Radloff (1837-1918) である。同氏は、1885-1890年まで第5代アジア博物館館長も務めた。



I. Vorobyov (1869-1950) がロシア科学アカデミーの命令により1906年タイに出張し、仏像とともに購入した主にクメール文字貝葉写本である<sup>24</sup>。Mironov 目録には Vorobyov 番号が記載されている。この貝葉写本を最初に調査したのは、後述する Alexander von Staël-Holstein であった。写本は11束に綴じられていたようで、同氏が1914年以前に作成した束単位のリストが近年公表された<sup>25</sup>。

Mironov 目録は第2冊の刊行も予定されていたが、ロシアでは1917年11月（ユリウス暦では10月）に革命が起きたため、Mironov が1919年にサンクトペテルブルクを離れ、シベリア東部のイルクーツクに逃亡、移住したことにより<sup>26</sup>、後述するロシア国立図書館のインド語写本目録（文献番号2-002）と同様、第2冊は出版されずに終わった<sup>27</sup>。

因みに、Stcherbatsky の弟子で『俱舎論』の研究で知られる Otto Ottonovich Rosenberg (1888-1919) <sup>28</sup>も内戦から避難するため、1919年サンクトペテルブルクを去り、フィンランド、米国経由で第二の故郷である日本への逃亡を計画したが、11月26日現エストニアの首都タリン（当時はReval）にて猩紅熱のため32歳にして夭折した。Rosenberg 夫人より荻原雲来宛に送られた、夫の逝去を知らせる書簡の和訳と東京大学大学院留

---

Radloff の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.3.001 を参照。

<sup>24</sup> Ermakova 2014, p. 206.

<sup>25</sup> Ermakova 2015, p. 93-94.

<sup>26</sup> Ostrovskaia 2014, p. 268. Mironov は、1916-1918年までサンクトペテルブルク大学の Assistant Professor であった。同氏はイルクーツク大学に新設された比較言語学梵語学講座にて講義し、その後中国に移り、最終的にはチュニジアにて逝去した。ロシア語版 Wikipedia を参照。

<sup>27</sup> Mironov は序文にて、現在の異常な状況下で目録の刊行が遅れたこと、目録の完成の可能性は低い、第2冊には索引や新旧番号対照表を付けること等を記述している。

<sup>28</sup> Rosenberg は『俱舎論』研究の他、『五段排列漢字典』（東京、1916）も出版した。Rosenberg の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS M1.20.016 を参照。

学時代<sup>29</sup>、1912年からの4年間に親交のあった、荻原雲来（1869-1937）はじめ、高楠順次郎（1866-1945）、宇井伯壽（1882-1963）、池田澄達（1876-1950）、姉崎正治（1873-1949）等が執筆した思い出の記が『宗教研究』に掲載されている<sup>30</sup>。Rosenberg の日本留学は、Stcherbatsky がインド滞在中の1911年、カルカッタ大学で教鞭を執っていた山上曹源（1878-1957）に会い<sup>31</sup>、日本における『俱舍論』の研究状況の詳細を学び、伝統的な解釈が今もって継承されていることを聞き、それを書簡にて Rosenberg に知らせたことが機縁となった<sup>32</sup>。

ロシアでは、国際的なプロジェクトとして、“Bibliotheca Buddhica” が1897年から1937年にかけて30冊刊行される<sup>33</sup>等、革命後も学術活動は継続されていたが、スターリンによる粛清により、1930年代後半にインド学仏教学関係者の一部には投獄、あるいは投獄の上、銃殺された研究者もいる<sup>34</sup>。詳細は、ロシアで粛清された東洋学者に関する事典が2003年に出版され、増補版がオンラインで公開されているので参照されたい<sup>35</sup>。

<sup>29</sup> Rosenberg の他、後述の N. A. Nevsky、ロシアにおける日本学の父と称される Nikolai Konrad（1891-1970）、これらサンクトペテルブルク大学出身の三人が時を同じくして、日本に留学し交流していた。Katō 2011, 第3章 日本留学と学友たち。ロシア革命。

<sup>30</sup> 『宗教研究』3, 12（1920）, 108-113. <https://jpars.org/journal/database/archives/160> (BSBS M1.20.016(2))

<sup>31</sup> Jaffe 2020, p. 288.

<sup>32</sup> Stcherbatsky 1924, p. 45, Barlow 1998, p. 51 (Stcherbatsky 1924 の英訳). Nishimura 2012, 第11章 荻原、渡辺とローゼンベルク, p. 226-251.

<sup>33</sup> 東洋写本研究所の Website にて公開されている。  
<http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3456>

<sup>34</sup> 管見の限りでは、次の学者である。A. I. Vostrikov (1902-1937), B. Baradiyn (1878-1937), M. I. Tubyansky (1893-1937), Tsyben Zhamtsarano (1880-1942), A. I. Ivanov (1877-1937), N. A. Nevsky (1892-1937) 等。B. V. Semichov (1900-1981) や B. D. Dandaron (1914-1974) のように数年間の投獄後、釈放された例もある。Dandaron は最終的には、当時の法律では違法となる宗教団体を組織したことが理由で刑務所に送られ、囚人として逝去した。Zorin 2020, p. 144-145.

<sup>35</sup> Liudi i sud'by: biobibliograficheskii slovar' vostokovedov - zhertv politicheskogo terora v

将来を嘱望されながら、28歳で夭折した V. S. Vorobyov-Desyatovskiy (1927-1956)<sup>36</sup>は、1951年より東洋学研究所の研究者として、インド語とチベット語の写本、中央アジア出土写本と文書の整理を託された。インド語の写本コレクションについては、Mironov 目録を基に、Mironov 未比定102点の写本タイトルを同定した。この同定リストは東洋学研究所に保管され、文献番号1-002の目録編纂に利用されたことが指摘されている<sup>37</sup>。同氏はこの作業の成果を1954年に報告し<sup>38</sup>、インド語写本コレクションの概要を詳述している。この論考において Vorobyov-Desyatovskiy は、写本番号に Mironov 番号を使用しているが、下記の文献番号1-002の目録に再録される際<sup>39</sup>、写本番号は新たに付与された番号に変更されている。同目録の利用には至便である反面、テキスト名の表記法も原本通りでない部分があり、注記も一部割愛される等、原本が改変されているので、原本の参照が欠かせない。

Mironov 目録所収写本にヒンディー語、パンジャブ語、南インド語写本、及び Vorobyov-Desyatovskiy によって同定された写本を加えた全788点を収録する、以下の簡略目録が1999年に刊行された。

#### 1-002.

T. K. Posova [i] K. L. Chizhikova: *Kratkii katalog indiiskikh rukopisei Instituta vostokovedeniia RAN* [Brief catalogue of the Indian manuscripts kept at the Institute of the Oriental Studies, RAN]. Moskva: "Vostochnaia Literatura", 1999. 168 p.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=136](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=136)

(BSBS B1.2.1.12.1.007, Lib., R929.8100/PO)

この目録では、写本の配列順序が写本タイトルのインド語のアルファ

---

sovetskii period [People and fates: a biobibliographical dictionary of Orientalists; victims of political terror in the Soviet period] (1917-1991). Sankt-Peterburg: Peterburgskoe vostokovedenie, 2003.

<https://memory.pvost.org/pages/dic.html> (BSBS L11.2.12.011, Lib. R282.03/VA)

<sup>36</sup> Vorobyova-Desyatovskiy の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.023 を参照。

<sup>37</sup> G. A. Zograf. 文献番号 1-002, p. 5.

<sup>38</sup> Vorob'ev-Desiatovskii 1954.

<sup>39</sup> 文献番号 1-002, p. 7-20.

ベット順に再編成され、新たな写本番号が付与された。サンスクリット語とパーリ語写本については対応する Mironov 番号が記載されている。巻末に写本の収集者索引、人名索引、インド諸語の言語別索引等が付されていて本目録利用の便が図られ、特定のタイトルを検索するには都合がよいが、記述内容が簡略に過ぎ、写本内容の詳細は Mironov 目録を参照する外ない。W. Wright 寄贈写本6点について両者の収録典籍を調査したところ、Mironov 目録に収録されていたのは No. 418: "Saddharma-lankāvātāra" 1点のみであるが、簡略目録には、その他5点、Mironov Nos. 506-510 も収録されている。Vorobyov コレクションも Mironov 目録未収録の Nos. 512-523 に9点が収録されている。簡略目録にて Mironov の最終番号は525であるから、Mironov は Nos. 467-525 のサンスクリット語とパーリ語写本を目録第2冊に収録する予定であったことが知られる。それ以外の仏典について、No. 417、19世紀頃の紙写本で、北京で購入され、元はロシア外務省アジア部図書館に所蔵されていた "Saddharmapundārikasūtra" (旧蔵 No. 1059) が簡略目録には収録されていない。この件について目録には何も言及されていないが、本写本の写真版が1984年に Lokesh Chandra (b. 1927) により出版された。標題紙には'Reproduced by Lokesh Chandra from the collection of Prof. Raghuvira' とあり、出版者の父 Raghuvira (1902-1963)<sup>40</sup> のコレクションであることが知られ、Raghuvira がアジア博物館から譲り受けたものと推測される。Lokesh Chandra によると、アジア博物館所蔵写本は、チベット由来の1082年書写の貝葉写本の複写であり、写真版出版当時、この貝葉写本は北京の民族文化宮図書館に所蔵、と記述されている<sup>41</sup>。民族文化宮図書館には、1960年代よりチベットか

<sup>40</sup> Raghuvira の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.13.044 を参照。

<sup>41</sup> Lokesh Chandra 1984, Preface. 湯山目録では、略号'L'で採録されている。Yuyama 1970, p. 14-15. 戸田宏文は、ネパール写本（紙本）グループ VIII に分類している。Toda 1997, p. 16. 本写本は『梵文法華經写本集成』（Sanskrit manuscripts of Saddharmapundarika collected from Nepal, Kashmir and Central Asia）全12巻（1977-1988年）には収録されていない。民族文化宮図書館所蔵の法華經貝葉写本は写真版（1982年刊）とローマ字本（1988年刊）が出版されている。Ji 1982, Jiang 1988.

ら約 250点のサンスクリット語仏典写本が一時的に移されていたが、1993年これらの写本はチベットに戻され、現在はラサのチベット博物館に保管され、写本のマイクロフィルムが北京大学に保存されている<sup>42</sup>。北京大学梵文貝葉經与佛教文献研究所（Research Institute of Sanskrit Manuscripts and Buddhist Literature, Peking University）のWebsiteで、この『法華經』の他、『八千頌般若經』、『十万頌般若經』、『中論頌』残本、『中論佛護釋』残本、月称『六十如理論釋』残葉等の画像がダウンロードできる仕様となっている<sup>43</sup>。

この簡略目録には、後述するロシア外務省アジア部図書館旧蔵の仏典写本7点は全く収録されてなく、現時点で "Saddharmapuṇḍarikasūtra" 以外の写本6点の所在は不明である。

簡略目録の収集者索引によると、最も多くの写本を収集したのは、ドイツの Richard Pischel (1849-1908)の下で学位を取得した、バルト・ドイツ人の Alexander von Staël-Holstein（中国語名: 鋼和泰 1877-1937）<sup>44</sup>であり、1906年と1908年に寄贈している。仏典は含まれていない。外国留学を終えた von Staël-Holstein は、ロシア外務省アジア部の一員となり、1904年にインドの副大使に任命され、1905年総領事としてボンベイに数か月間赴任し、公務の他、婆羅門の下でサンスクリット語を学習している<sup>45</sup>。同氏によ

---

戸田もローマ字本を出版している。Toda 1989-1991.

<sup>42</sup> Lo 2008, p. 118-117. 民族文化宮図書館に保管されていた当時、1985年に作成された『民族図書館蔵梵文貝葉經目録』（通称：王森目録）のNo. 4に該当する写本である。この目録は写真版が出版されている。Hu-von Hintüber 2006, p. 297-334.

<sup>43</sup> <http://www.fanfoyan.com/ms.htm> 《妙法蓮花經》梵文写本（1082年、原民族宮蔵梵文写本第4号）

<sup>44</sup> von Staël-Holstein は1909年にサンクトペテルブルク大学の学術職に就くが、1916年5月、サンクトペテルブルクを離れ、1917年より活動拠点を北京に移し、北京大学の非常勤教授、燕京大学 Sino-Indian Institute の所長として活躍し、同地にて逝去した。伝記については、Wang & Deng 2014 参照。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.014 を参照。

<sup>45</sup> Wang & Deng 2014, p. 14-15.

る写本収集は、ボンベイをはじめとするインド滞在先で行われた。Mironov は1908年に von Staël-Holstein 寄贈写本のリストを出版した<sup>46</sup>。

ロシア外務省アジア部図書館所蔵のサンスクリット語の写本・版本は、はじめ、漢語、満州語、モンゴル語、チベット語資料は、1864年にアジア博物館に移管された<sup>47</sup>。すべての言語資料に仏典が含まれている。

次の文献は、外務省アジア部図書館が1843年に出版した目録である。

### 1-003.

Dmitry Semoyonovich Chestnoy: Katalog" knigam", rukopisiam" i kartam", na kitaiskom", man'chzhurskom", mongol'skom", tibetskom" i sanskritskom" iazykakh", nakhodiashchimsia v bibliotekie Aziatskago departamenta [Catalogue of the books, manuscripts and maps in Chinese, Manchu, Mongolian, Tibetan, and Sanskrit found at the Library of the Asiatic Department]. Sanktpeterburg", 1843. 102 p.

[http://starieknigi.info/Knigi/K/Katalog\\_knigam\\_rukopisyam\\_i\\_kartam\\_na\\_kitajskom\\_manjchzhurskom\\_mongol'skom\\_yazykah\\_1843.pdf](http://starieknigi.info/Knigi/K/Katalog_knigam_rukopisyam_i_kartam_na_kitajskom_manjchzhurskom_mongol'skom_yazykah_1843.pdf)

(BSBS B1.2.1.12.1.001, Lib. K829.00/KA)

テキストのタイトルはキリル文字で記述され、タイトルのロシア語訳、写本と版本の別等が記載されている<sup>48</sup>。このコレクションは、北京で活動するロシア正教会が収集した資料<sup>49</sup>とロシアの鉱山技師 Pyotr Kozmich Frolov (1775-1839) が、南シベリアで1793年から1830年まで勤務していた時期に収集した資料を外務省アジア部図書館が入手したものである<sup>50</sup>。Mironov 目録では、旧外務省アジア部図書館所蔵写本は、'Dep. As.' を略号として旧蔵番号が記載され、サンスクリット語仏典写本として Mironov Nos. 414-417, 427, 429-430 の7点が収録されている。本目録では、資料番号 609 が最終番号であり、前記 "Saddharmapuṇḍarīkasūtra" (Dep. As. No.

<sup>46</sup> Mironov 1908.

<sup>47</sup> [Popova] ポポワ 2008a, p. 51.

<sup>48</sup> タイトルをキリル文字ではなく、テキストの記述言語の文字で表記した別本が1844年に出版されているが、筆者未見の資料である。文献番号 1-004 の340頁、注1。

<sup>49</sup> A. Zorin 2020, p. 43, 注 80.

<sup>50</sup> A. Zorin 2020, p. 44, 注 81.

1059) と No. 429-430: "Mahāvvyutpatti" (Dep. As. No. 1066) は収録されてなく、後述の文献番号 1-004 にも記載はないので、1844 年以降、アジア博物館に移管される 1864 年までにロシア正教会が北京で入手した資料と推定される。

ベルリンとボンに遊学した後 1842 年にロシアに戻り、科学アカデミー会員となった、サンスクリット語学者の Otto Böhtlingk (St. Petersburg 1815-1904 Leipzig)<sup>51</sup> は、上記文献番号 1-003 が海外では余り流通されなかったことから、サンスクリット語のテキストに限定して、その詳細を 1844 年に報告している。

#### 1-004.

Otto Böhtlingk: Über einige Sanskrit-Werke in der Bibliothek des Asiatischen Departements. In: Bulletin de la Classe Historico-Philologique de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg, 2, 22 (1844), 339-349.

<http://archive.org/details/bulletindelacla01rusgoog/page/n473/mode/1up?view=theater>

(BSBS B1.2.1.12.1.002)

内容は仏典、"Mahāvvyutpatti" を含む辞書類、文法書等で、主に北京で印刷された版本である。

さらに Böhtlingk は、アジア博物館所蔵インド語写本・版本の目録を 1846 年に出版した。

#### 1-005.

Otto Böhtlingk: Verzeichniss der auf Indien bezueglichen Handschriften und Holzdrucke im Asiatischen Museum der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften. In: Bernhard Dorn: Asiatische Museum der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften zu St. Petersburg. St. Petersburg: Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften, 1846. p. 720-736.

[https://books.google.co.jp/books?id=N0YCAAAAYAAJ&printsec=titlepage&hl=de&source=gbs\\_summary\\_r&redir\\_esc=y#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=N0YCAAAAYAAJ&printsec=titlepage&hl=de&source=gbs_summary_r&redir_esc=y#v=onepage&q&f=false)

(BSBS B1.2.1.12.1.003, Lib. K185.50/DO)

---

<sup>51</sup> Böhtlingk の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.007 を参照。

分類項目 B にチベット語、モンゴル語、満州語、あるいは漢語を付属するサンスクリット語版本仏典を収録し（資料番号 119-128）、若干の写本も含む。写本について、本目録の資料番号は、Mironov 目録では括弧内に 'Ind.' を略号として記載され、Nos. 417-418、428 の 3 点を数える。

ロシアにおけるモンゴル学・チベット学のパイオニアと称され、1828 年にアジア博物館に採用された I. J. Schmidt (Amsterdam 1779-1847 St. Petersburg)<sup>52</sup> と Böhlingk 編纂のチベット語写本・版本の目録が、Schmidt 逝去の翌年 1848 年に刊行された。

### 1-006.

I. J. Schmidt und Otto Böhlingk: Verzeichnis der tibetischen Handschriften und Holzdrucke im Asiatischen Museum der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften. In: Bulletin de la Classe Historico-Philologique de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg, 4 (1848), [81]-128.

<https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=uiug.30112060769335&view=lup&seq=57>

(BSBS D2.2.20.1.003)

本目録には赤字印刷のデルゲ版 Kanjur が収録されているが、目録ではナルタン版と記述されている。今枝由郎は 1981 年にこの誤りを指摘し<sup>53</sup>、東洋写本研究所の Website でも訂正されている (Last updated 07/12/2010)<sup>54</sup>。同 Website の記述によると、この Kanjur は後述の Paul Schilling von Canstadt がブリヤートで入手し、同氏の逝去後にアジア博物館が購入したものである。西洋諸国では、フランス国立図書館 (BnF) 所蔵のナルタン版 Kanjur とともに、最も早期に入手された Kanjur の一具であった<sup>55</sup>。

<sup>52</sup> Schmidt の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.003 を参照。

<sup>53</sup> Imaeda 1981, p. 233, 注 14. 今枝は Paul Schilling の Kanjur 版本への誤解が Schmidt と Böhlingk の目録でも繰り返されたと、述べている。

<sup>54</sup> <http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=2656>

<sup>55</sup> インドの Asiatic Society of Bengal よりパリの Société Asiatique へ 1835 年に送られたナルタン版 Kanjur である。1840 年フランス国立図書館 (BnF) に寄託された。この Kanjur はカトマンドウの Brian Houghton Hodgson が Société Asiatique への寄贈用として Asiatic Society of Bengal へ送った一具であった。Filliozat, 1945,



1840年よりベルリンに遊学、1843年に帰国し、1848年より科学アカデミーに所属して Schmidt の後継としてチベット語資料コレクションのキュレーターとなったバルト・ドイツ人の Anton Schiefner (Reval 1817-1879 St. Petersburg) <sup>56</sup>は、Böhlingk と Schmidt が編纂した上記文献番号1-005 と 1-006の補遺を作成した。

#### 1-007.

Anton Schiefner: Nachträge zu den von O. Böhlingk und I. J. Schmidt verfassten Verzeichnissen der auf Indien und Tibet bezüglichen Handschriften und Holzdrucke im Asiatischen Museum der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften. In: Bulletin de la Classe Historico-Philologique de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg, 5 (1848), 145-151.

<https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=uiug.30112060769335&view=lup&seq=345&skin=2021>

(BSBS B1.2.1.12.1.004)

Schiefnerは、後述する Vasily Pavlovich Vasilyev が北京で入手し、アジア博物館に送った、サンスクリット語版本仏典をはじめとする新資料についても報告している。

#### 1-008.

Anton Schiefner: Bericht über die neueste Büchersendung aus Peking. In: Bulletin de la Classe Historico-Philologique de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg, 9 (1852), 10-14, 17-32 = Mélanges Asiatiques, I, 4 (1851), 405-429.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=5822](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=5822)

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/Melanges\\_Asiatiques\\_01\\_1851\\_27\\_schiefner.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/Melanges_Asiatiques_01_1851_27_schiefner.pdf)

(BSBS B1.2.1.12.1.005)

これらの資料には、Vasilyev 作成のメモが添付されていたようで、Schiefner は度々 'Nach einer Notiz Wassiljew's' と記述している<sup>57</sup>。

---

Introduction, p. 1-4.

<sup>56</sup> Schiefner の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.009 を参照。

<sup>57</sup> Nos. 286a, 437a, 438a, 460d.

"Bibliotheca Buddhica" 第29冊、E. Obermiller（1901-1935）<sup>58</sup>の"Prajñā-pāramitā-ratna-guṇa-saṃcaya-gāthā"（1937年刊）<sup>59</sup>で底本とされたのは、Obermillerと同じくTh. Stcherbatskyの弟子、M. I. Tubyansky（1893-1937）<sup>60</sup>がモンゴルのMañjuśrī僧院（Mandzuśrīin kiit）で発見した版本で、サンスクリット語のテキストはランツァ（Lañ-tsa, Rañja, Rañjanā）文字で書かれ、チベット語訳を付属するテキストである。19世紀半ば以降、東洋写本研究so所蔵のサンスクリット語版本仏典の目録、あるいは所蔵状況が確認できる報告書は刊行されていないため、このテキストも含め、版本仏典に関する現在の正確な所蔵情報は確認できない<sup>61</sup>。最新情報の提供が俟たれる。

チベット語資料の受け入れは1720年以前まで遡り<sup>62</sup>、Kunstkameraの図書室に収納された。最初に受け入れたチベット語資料に関する歴史については、東洋写本研究soのAlexander Zorin（b. 1979）が詳述している<sup>63</sup>。同氏は、ロシアにおけるチベット学史に関する著書を本学附置国際仏教学研究soの叢書として2020年に出版したが<sup>64</sup>、ロシアにおけるチベット語資料収集の歴史についても詳述されていて、一読すべき好著である。本稿も本書に負うところ大である。

18世紀においてチベット語とモンゴル語の資料収集に最も貢献したのは、ドイツ生まれのJohannes Jähig（Hermhaag bei Büdingen 1747-1795 St.

<sup>58</sup> Obermillerは長年、脊髄空洞症と闘いながら数々の業績を残したが、33歳を一期として鬼籍に入った。A. Zorin 2020, p. 101-104. 同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M1.20.019を参照。

<sup>59</sup> [http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1610](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1610)

<sup>60</sup> Tubyanskyは1927年よりモンゴルにて研究を続け1936年に帰国したが、肅清によりNevskyと同日の1937年11月24日に銃殺された。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M1.20.018を参照。

<sup>61</sup> 湯山明も当該版本の所在について"Leningrad (?)"と記述している。Yuyama 1976, p. xxvii.

<sup>62</sup> Zorin 2015, p. 35.

<sup>63</sup> Zorin 2015. Herman-Ważny, Kriakina, Zorin 2015をも参照。

<sup>64</sup> Zorin 2020.

Petersburg) <sup>65</sup>である。Jähig は、1774年から1780年までカルムイクを採検、1780年代にはブリヤートを採検し、仏教美術品とチベット語、モンゴル語、カルムイク語の文献を収集し、ロシア科学アカデミーに納入した。サンクトペテルブルクに滞在した1788年から1789年に同アカデミー所蔵のチベット語とモンゴル語の資料と美術品の目録を編纂し、同氏逝去の翌年1796年、ロシア科学アカデミー図書館館長（1797-1799年在任）となる Johann Heinrich Busse（1763-1835）により出版された。これがチベット語とモンゴル語資料の最初の目録である。CiNii 検索によると、国内に収録誌の所蔵館がなく、筆者未見の資料であるため、書誌のみ記述した。詳細はZorin氏の著書を参照されたい<sup>66</sup>。

#### 1-009.

Johann Heinrich Busse u. Johann Jähig: Über die Mongolischen Bücher der hiesigen akademischen Bibliothek. Verzeichniss des Inhalts Mongolischer und Tübätischer, theils gedruckter, theils geschriebener Bücher und Schriften, und selbst abgezeichneter Allegorischer Tempeln-Bildnisse Brachmanischer Heiligen, wie selbige in derselben Tempeln befindlich. In: Journal von Russland, 3. Jahrgang, Bd. 2 (1796), 122-137.

Busseは1798年、この目録の補遺を含む『中国語・満州語・日本語・チベット語・モンゴル語典籍目録』を編纂し、その文書がアーカイブに保管されている。同様に、I. J. Schmidt が1828年、アジア博物館の一員になった年に編纂した、チベット語とモンゴル語資料の解題文書もアーカイブに保管されている。この両文書については、Hartmut Walravens (b. 1944) と A. Zolin が共同研究している<sup>67</sup>。

東洋写本研究所所蔵のチベット語写本・版本は、中央アジアでの収集品を除き、主に次の人物のコレクションによって構成されている。

バルト・ドイツ人の Paul Schilling von Canstadt (Reval 1786-1837 St.

<sup>65</sup> Zorin 2020, p. 28-30.

<sup>66</sup> Zorin 2020, p. 29.

<sup>67</sup> Walravens, Zolin 2016. Jähig が 1792 年に執筆した、チベット文字とチベット語の入門書の原稿も 2018 年に出版された。Walravens & Sizova 2018.

Petersburg) <sup>68</sup>のコレクションは、ブリヤートの僧院で収集、ブリヤート出身の Gombozhab Tsybikov (1873-1930) <sup>69</sup>のコレクションは、1899年から1902年にラサと中央チベットの僧院で収集<sup>70</sup>、同じくブリヤート出身の Bajar Baradiyn (1878-1937) <sup>71</sup>のコレクションは、1905年から1907年にアムドの Labrang 僧院で収集したものである<sup>72</sup>。

Paul Schilling が1830年から約2カ年、ブリヤートに出張滞在して収集したチベット語とモンゴル語の写本・版本は、アジア博物館に所蔵されたが、その一部は1836年にフランス学士院図書館 (Bibliothèque de l'Institut de France) に寄贈され<sup>73</sup>、チベット語資料は Jacques Bacot (1877-1965)、モンゴル語資料は Louis Ligeti (1902-1987) により目録が出版された<sup>74</sup>。Paul Schilling のコレクションには約20点のチベット語の *dkar-chag* (内容索引) があり、チョネ版 Kanjur・Tanjur、ナルタン版 Kanjur・Tanjur、デルゲ版 Kanjur の *dkar-chag* を含む<sup>75</sup>。その一つの *dkar-chag* 写本は I. J. Schmidt による序文を付して1845年に復刻出版された<sup>76</sup>。これについて、下記の文献番号 1-010 の総合目録では、チョネ版 Kanjur の *dkar-chag* と記述されてい

<sup>68</sup> Schilling は一般にはシリング式電信機の発明者として知られている。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.005 を参照。

<sup>69</sup> Zorin 2020, p. 67-73. Tsybikov の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.022. を参照。

<sup>70</sup> 入手した約330巻の版本仏典は、1904年にアジア博物館に持ち込まれた。ゲルク派学僧の全集がコレクションの中核をなす。Zorin 2020, p. 70.

<sup>71</sup> Baradiyn はサンクトペテルブルク大学で、後述の Ts. Zhamtsarano と共に Oldenburg と Stcherbatsky の下で学んだ。同氏も肅清により1937年8月24日に銃殺された。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.027 を参照。

<sup>72</sup> 東部チベットにて著名な作者の著作を中心に約200巻の版本を購入した。Zorin 2020, p. 74-75.

<sup>73</sup> 山口益は、Marcelle Lalou の報告に基づき「ビュルヌフのために、フォン・コンシュタートによってフランスの学士院にチベット文のコレクションが譲り渡された」と記す。Yamaguchi 1954, p. 13, Lalou 1951, p. 479.

<sup>74</sup> Bacot 1924, Ligeti 1930.

<sup>75</sup> Zorin 2020, p. 41.

<sup>76</sup> Schmidt 1845. 写本原本は紛失し、東洋写本研究所には現在所蔵されていないことが下記脚注 77 の当該頁に記述されている。

るが<sup>77</sup>、今枝由郎はデルゲ版 Kanjur の *dkar-chag* と判定し、論旨を展開して<sup>78</sup>、両者の見解は異なる。

Tsybikov と Baradiyn 将来品については、サンクトペテルブルク国立大学の Vladimir L. Uspensky (b. 1954) によりリストが出版されている<sup>79</sup>。

チベット語写本・版本については種々な目録、解題等があるが<sup>80</sup>、2007年よりチベット語資料コレクションの総合的な目録化プロジェクトが推進され、第1部の目録として全4巻に 15,000点を収録して刊行することが報告されている<sup>81</sup>。現在まで、2017年以降3冊が出版されている。

### 1-010.

Katalog sochineniĭ tibetskogo buddiĭskogo kanona iz sobraniia IVR RAN (The catalogue of texts of the Tibetan Buddhist canon kept at the Institute of Oriental Manuscripts, RAS). Sankt-Peterburg: Peterburgskoe Vostokovedenie, 2017-2020. (Orientalia)  
(BSBS D1.1.023, Lib. R180.321/KA)

第1冊（2017年）は、5種の版本 Kanjur (Peking, Narthang, Derge, Cone, Urga)、2種の版本 Tanjur (Peking, Narthang) と 24種の *dkar-chag* が収録され、第2冊（2019年）は第1冊の索引、第3冊の第1分冊（2020年）は、個別の版本・写本の経典、特に般若経典類、*gZung-'dus* と *mDo-mang* の陀羅尼経典のコレクション、索引等から構成されている。Alexander Zorin を中心に編纂される目録の完成により、東洋写本研究所が所蔵するチベット語資料の全貌が知られることになる。

チベット語資料に関する書誌学的観点から言及すべきは、Stcherbatsky の弟子 Andrey Ivanovich Vostrikov (1902-1937)<sup>82</sup> の遺作で、周到な文献目録を備えるチベット語の歴史文献に関する研究である。序文には、1936年

<sup>77</sup> 文献番号 1-010, 第 1 冊 p. 493.

<sup>78</sup> Imaeda 1981, p. 233.

<sup>79</sup> Uspensky 1996, p. 180-184. 本論文にて St. Petersburg の 3 図書館に所蔵される古いチベット語とモンゴル語のコレクションの概要が知られる。

<sup>80</sup> BSBS, D2.2.20.1 参照。

<sup>81</sup> 文献番号 1-010, vol. 1, p. 510.

<sup>82</sup> Vostrikov は、粛清により 1937 年 10 月 26 日に銃殺された。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.039 を参照。

と年次が記されているが、出版されたのは没後25年の1962年であった。1957年にロシアに戻った George N. Roerich (1902-1960)<sup>83</sup>は1937年に休刊していた "Bibliotheca Buddhica" の刊行を再開し、本書を同叢書の第32冊として出版した。Roerich は「あとがき」にて 1936年以降 1960年までに出版された、Vostrikov の文献目録を補う主要な文献を列挙した。本書の英訳は1970年に刊行され、訳者 Harish Chandra Gupta は、1936年以降 1960年までに出版された関係論著の参考文献表を追加した。没後 70年の 2007年 A. Zorin は、初版に掲載された Vostrikov 夫人の序文を含む新たな序文（内容は主に Vostrikov の伝記）を付し、Gupta による目録補遺と 1960年以降 2006年までに出版された関係論著の参考文献表、モンゴル文字と漢語による著作と名前の索引、研究者名の索引を付して再版した<sup>84</sup>。筆者は Vostrikov の著作自体を評価する立場にはないが、本書に備わる文献目録が時代を超えて引き継がれ、著者没後の70年分の関係論著が増補されていることに注目したい。Vostrikov は、この遺作に先行してオランダのチベット学者、Johan van Manen (Nijmegen 1877-1943 Calcutta)<sup>85</sup>が 1922年に出版した、チベット学文献目録<sup>86</sup>に対する批判的な補正論考を 1933年に刊行<sup>87</sup>、続いてその英語版も出版している<sup>88</sup>。

東洋写本研究所所蔵のモンゴル語写本も1720年頃、Kunstkamera の図書室に収蔵されたのが始まりである。内蒙古自治区社会科学院に所蔵されるモンゴル語金字写本 (Golden manuscript) Kanjur と類似する Kanjur 12葉と9断片もピョートル大帝の時代に入手された。次の論文にその目録が収録されている。写本 Kanjur 研究については、文献番号 3-003 にて後述

<sup>83</sup> Roerich は 1918 年から 1958 年までの、ロシアにおけるインド学に関する文献目録を出版している。Roerich 1960. 同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.038 を参照。

<sup>84</sup> Vostrikov 2007.

<sup>85</sup> van Manen の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M3.025 を参照。

<sup>86</sup> van Manen 1922.

<sup>87</sup> Vostrikov 1933.

<sup>88</sup> Vostrikov 1935-1937.

する。

### 1-011.

Alekseev, Kirill, Turanskaya, Anna, Yampolskaya, Natalia: Mongolian golden Kanjur fragments in the collection of the IOM, RAS. In: *Written Monuments of the Orient*, 1 (2016), 85-105.

The catalogue of the 'golden' folios in the IOM, RAS, p. 95-101.

<https://journals.eco-vector.com/2410-0145/article/view/25783/19953>

(BSBS E1.2.2.001.1.1)

その後、写本・版本は前述の Jährg や Paul Schilling はじめ多くの研究者や探検家によりモンゴル、ブリヤート、中国等から収集され、東洋写本研究の蔵書は世界有数のコレクションの一つとなり、サンクトペテルブルク国立大学図書館所蔵分も含め、サンクトペテルブルク地区の収蔵品はその質、量、多様性において比類がないと言われている<sup>89</sup>。特に多年にわたり資料収集に最も貢献したのは、ブリヤート出身のモンゴル学者、Ts. Zhamtsarano (1880-1942)<sup>90</sup>で、同氏のコレクションだけでも6部分から構成され、数量は302点に及ぶ。Zhamtsarano と Baradiyn 将来品の目録については、両氏が編纂した目録に基づき、若干の校正を経て、Carl Hermann Salemannにより1905年に出版された<sup>91</sup>。

モンゴル語写本・版本の蔵書目録は A. G. Sazykin (1943-2005)<sup>92</sup>により3冊本が出版されている。

### 1-012.

Katalog mongol'skikh rukopisei i ksilografov Instituta vostokovedeniia Akademii Nauk SSSR [Catalogue of the Mongolian manuscripts and xylographs in the Institute of Oriental Studies of the Academy of Sciences of the USSR], 3 vols. Moskva: Izd-vo

<sup>89</sup> Nakami 2000, p. 3.

<sup>90</sup> Zhamtsarano は肅清により1937年に逮捕され、1942年5月4日、強制労働収容所にて逝去した。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M4.011を参照。

<sup>91</sup> Salemann 1905.

<sup>92</sup> Sazykinの業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS, M4.045を参照。

Nauka: 1988-2003.

(BSBS E2.2.15.1.001, Lib. R222.6/SA)

第1冊は 2,155点 (Nos. 1-2388) の写本・版本を収録、第2冊は Kanjur と Tanjur (Nos. 2389-2969)、その他の仏典 (Nos. 2970-3868) を収録、第3冊は仏教儀礼、仏教宇宙論、戒律、僧院規則、仏教史、仏教図像、全集や高僧伝等に関するテキスト (Nos. 3869-5086) を収録する。第1冊の序文にて本コレクションの収集と編成に関する歴史とコレクションの特徴について詳述されている。幸いにも、米国 Bloomington のモンゴル協会よりこの序文の英訳が刊行され<sup>93</sup>、恩恵を与えてくれている。中見立夫もロシア語の序文に基づき、このコレクションの概要を要領よくまとめて報告している<sup>94</sup>。

東洋写本研究所所蔵の中央アジア出土写本コレクションは、現在 'Serindia Collection' と命名され、管理されている。同研究所の Website の説明によると<sup>95</sup>、Serindia とは、紀元前2世紀から1世紀における、広義ではチベットとモンゴルを含む中央アジアと東アジアを指す広範囲な地域、あるいは狭義には東トルキスタン（現在の新疆ウイグル自治区）、換言すると、カラシャール、クチャ、コータン、トゥルファン等のオアシス地帯を指す、という。この 'Serindia Collection' に該当する資料の記述言語として、サンスクリット語、プラークリット語、トカラ語 A・B（クチャ語）、コータン・サカ語、ソグド語、中期ペルシャ語、ウイグル語、漢語、チベット語を挙げている。

このコレクションは、多くの探検家、研究者、役人が購入・収集した写本により構成されている。名前を列挙すると、Nikolai F. Petrovsky (1837-1908、カシュガルの総領事)、Nikolai N. Krotkov (1869-1919、ウルムチ等の領事)、M. M. Berezovsky (1848-1912、中央アジアの探検家、動物・生物学者)、I. P. Lavrov (1877-1952以降、カシュガル領事館事務官)、A. I. Kokhanovsky (?-?、1906-1908 ウルムチ領事館の医師)、D. A. Klements

<sup>93</sup> Sazykin 1995.

<sup>94</sup> Nakami 2000.

<sup>95</sup> <http://www.orientalstudies.ru/rus/templates/serindica/index.html>



(1847-1914、探検家、考古学者)、A. A. Dyakov (1876-?, ウルムチ等の領事事務官)、S. F. Oldenburg (1863-1934、インド学仏教学者)、Sergei E. Malov (1880-1957、古代トルコ語学者)、V. I. Roroborovsky (1856-1910、探検家)、P. K. Kozlov (1863-1935、探検家)、Sergei Aleksandrovich Kolokolov (1868-1921、カシュガルの総領事等)、Alexandr Semyonovich Strelkov (1896-1938、エルミターージュ美術館学芸員) である。

'Serindia Collection'の資料番号は、冒頭に'SI'を略号とし、1スペースを空けて収集者の名前のイニシャル 1文字、あるいは数文字が付され、スラッシュの後にテキスト番号が続く。これが資料番号の基本形である。例えば、Petrovsky 収集写本であれば、略号は'SIP'であり、Krotkov 収集写本であれば、略号は'SIKr'である。

中央アジア出土インド語写本については、次の 3 冊本が出版され、写本の翻字と翻訳、巻末に写本の写真版も添付されている。近年、東洋写本研究所の Website にて PDF が公開された。

### 1-013.

Pamiatniki indiškoj pis'mennosti iz TSentral'noj Azii [Indian texts from Central Asia], 3 vols. Moskva: Izd-vo Nauka, 1985-2004. (Pamiatniki pis'mennosti Vostoka, 73: Bibliotheca Buddhica, 33, 34, 40)

1 (1985): Izdanie tekstov, issledovanie, i kommentarij G. M. Bongard-Levina, M. I. Vorob'evoi-Desiatovskoj. 285 p., (p. 182-285: Plates)

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=9816](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=9816)

2 (1990): Izdanie tekstov, issledovanie, perevod i kommentarij G. M. Bongard-Levina, M. I. Vorob'evoi-Desiatovskoj. 439 p. (p. 324-439: Plates)

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=9817](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=9817)

3 (2004): Izdanie tekstov, issledovanie, perevod i kommentarij G. M. Bongard-Levina, M. I. Vorob'evoi-Desiatovskoj, E. N. Temkina. 533 p., portr. (p. 373-533: Plates.)

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=95](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=95)

(BSBS B1.2.3.8.001, Lib. 183.971/PA)

本書の編纂者 G. M. Bongard-Levin (1833-2008)<sup>96</sup>と M. I. Vorobyova-Desyatovskaya (1933-2021)<sup>97</sup>は、第1冊出版の翌年、国際仏教学研究所叢書の1冊として本コレクションの概要を英文で刊行し、後半部分に写本断片リスト (Tables) を付して便宜を提供している。

#### 1-014.

Indian texts from Central Asia: Leningrad manuscript collection. Tokyo: International Institute for Buddhist Studies, 1986. 23 p., [32] p. (Bibliographia Philologica Buddhica, series minor, 5)

(BSBS B1.2.3.8.002, Lib. 183.971/BO)

さらに、上記文献番号 1-013 の第3冊 (2004年刊) に収録された Vorobyova-Desyatovskaya 女史執筆の中央アジア出土写本コレクションに関する最新の情報については、英訳が出版されている<sup>98</sup>。

中央アジア南西部トルクメニスタンの都市 Bairam-Ali 近郊のメルヴ遺跡から発見されたサンスクリット語仏典写本 'Merv Manuscripts' については、M. I. Vorobyova-Desyatovskaya の解説が13回にわたり出版された<sup>99</sup>。第1部分の内容は、辛嶋静志 (1957-2019) により説一切有部の漢訳『十誦律』(大正 No. 1435, 423b10f.) に比定されている<sup>100</sup>。

#### 1-015.

M. I. Vorobyova-Desyatovskaya: A Sanskrit manuscript on birch-bark from Bairam-Ali. 1: The Vinaya of the Sarvāstivādins, 5 pts. In: Manuscripta Orientalia, 5, 2 (1999), 27-36; 5, 3 (1999), 27-35; 5, 4 (1999), 7-19; 6, 1 (2000), 15-18; 6, 2 (2000), 10-16. 2: Avadānas and Jātakas, 8 pts. In: Manuscripta Orientalia, 6, 3 (2000), 23-32; 7, 1 (2001), 10-23; 7, 2 (2001), 10-19; 7, 3 (2001), 9-14; 7, 4 (2001), 12-21; 8, 1 (2002), 18-26; 8, 2

<sup>96</sup> Bongard-Levin の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.033 を参照。

<sup>97</sup> Vorobyova-Desyatovskaya の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M1.20.031 を参照。前述の V. S. Vorobyov-Desyatovsky の寡婦である。

<sup>98</sup> Vorobyova-Desyatovskaya 2006.

<sup>99</sup> 本文はロシア語であるが、文献番号 1-013 の第3冊にも収録されている。p. 273-336.

<sup>100</sup> Karashima 2000, p. 214.

(2002), 20-28; 8, 3 (2002), 26-33.

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_personalities&Itemid=74&person=79](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_personalities&Itemid=74&person=79)

(BSBS B1.2.3.8.3.001)

国際仏教学研究所の堀伸一郎は、東洋文庫が所蔵する本コレクションのマイクロフィルムを調査し、同定された写本の最新のリストを出版した<sup>101</sup>。このリストには、大正蔵や関連する校訂本の対応個所が示されているので至便である。Petrovsky コレクション 39 点、Malov コレクション 1 点、Krotkov コレクション 9 点、計 49 点が列挙されている。但し、このマイクロフィルムに Berezovsky と Oldenburg のコレクション、'Merv Manuscripts' は収録されていないため、それら写本は対象外となっている。一方、未出版の写本断片でマイクロフィルム化されている、Petrovsky と Krotkov コレクションの一部についてはリストに収録されている。同氏が指摘するように<sup>102</sup>、このマイクロフィルムはコレクション全体を網羅してなく、Malov コレクションについて M. I. Vorobyova-Desyatovskaya は、堀が指摘した SI M/16.4 以外の SI M/16.1, 16.2 "Mahāprajñāpāramitāsūtra" と SI M/16.3, SI M/17 "Saddharmapūṇḍarikasūtra" の写本断片の写真版とテキストの翻字を出版している<sup>103</sup>。

東洋写本研究所の若手研究員により 'Serindia Collection' のサンスクリット語写本の研究史と最新情報が報告された。それによると、写本断片の総数は 700 点であり、収集者ごとの点数が列挙されている<sup>104</sup>。

'Serindia Collection' のサンスクリット語仏典で重要なテキストの写真版と校訂本の出版が始まった。

#### 1-016.

The St. Petersburg Sanskrit fragments, 1. Editor-in-chief: Seishi Karashima and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya. Tokyo: Institute of Oriental Manuscripts of the Russian

<sup>101</sup> Hori 2014.

<sup>102</sup> 「大乘涅槃経断片 6 本のうち 1 本 (SIP/85b) しか収録されていない。」 Hori 2011, p. 3.

<sup>103</sup> Vorobyova-Desyatovskaya 1995.

<sup>104</sup> Meshezhnikov & Shomakhmadov 2020, p. 26-27.

Academy of Sciences & International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University, 2015. x, 545 p., 123 p. of plate. (Buddhist manuscripts from Central Asia)  
<http://iriab.soka.ac.jp/publication/stpsf.html>  
 (BSBS 1.2.3.8, Lib. 183.971/KA)

本書には、'Merv Manuscripts'の一部も含まれている。第1冊刊行後、主編者の両名は逝去されたため、第2冊以降の刊行は不明である。

ソグド語写本断片 142 点については、東洋学研究所でソグド語文献の研究に従事していた A. N. Ragoza (1932-1998) 女史により出版された。内容は、写本の写真版、翻字、翻訳、註釈、語彙集等である。

### 1-017.

Sogdiiskie fragmenty Tsentral'no-asiatskogo sobraniia Instituta vostokovedeniia [Sogdian fragments of the Central Asian collection of the Institute of Oriental Studies]. Faksimile. Izd. tekstov, chtenie, perevod, predislovie, primechaniia i glossarii A. N. Ragoza. Moskva: Izd-vo "Nauka", 1980. 183 p. [Plates: p. 115-183.]  
[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=589](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=589)  
 (BSBS F2.2.5.003, Lib. 183.974/RA)

1893年から1915年にかけて中央アジア各地で収集された写本断片であるが、4人の収集者別に記述されている。収集者は A. I. Kokhanovsky、Nikolai N. Krotkov、S. F. Oldenburg、V. I. Rorobrovsky である。本書に対する Nicholas Sims-Williams の書評論文は、写本の読みの訂正の他、収録仏典への言及もあり参考になる<sup>105</sup>。吉田豊は、未出版のソグド語テキストについてリストを公表している<sup>106</sup>。

ソグド語仏典は、主に漢語仏典からの重訳であることは知られている。吉田豊によるロシア所蔵分も含む、内容が比定された現存するソグド語仏典写本の包括的な書誌学的研究は、各テキストの大正蔵との対応箇所も示されていて有益である<sup>107</sup>。Oldenburg が敦煌で収集した写本について

<sup>105</sup> Sims-Williams 1981.

<sup>106</sup> Yoshida 2001.

<sup>107</sup> Yoshida 1991, 2015a. David Anthony Utz の研究も有益である。Utz 1980.

も同氏の報告があり<sup>108</sup>、ソグド語仏典の研究史も2015年にOnlineで公表している<sup>109</sup>。

コータン語写本については、次の著作が出版された。内容は Petrovsky、Oldenburg、Malov 収集写本の写真版、翻字、翻訳、索引であり、熊本裕も本書の編纂に協力している。。

### 1-018.

Saka documents, 7: The St. Petersburg collections. Ed. by Ronald E. Emmerick and Margarita I. Vorob'ëva-Desjatovskaja. London: SOAS, 1993. 24 p., 159 p. of plates. (Corpus Inscriptionum Iranicarum, 2: Inscriptions of the Seleucid and Parthian periods and of Eastern Iran and Central Asia, 5) ISBN 0-7286-0224-5.

(BSBS F3.2.3.001, Lib. A226.3/SA/7)

Saka documents, text volume 3: The St. Petersburg collections. Ed. by Ronald E. Emmerick and Margarita I. Vorob'ëva-Desjatovskaja, with contributions by H. Kumamoto, Prods Oktor Skjærø, H. Vetch, and Zhang Guanda. London: SOAS, 1995. 256 p., 39 plates. (Corpus Inscriptionum Iranicarum, 2: Inscriptions of the Seleucid and Parthian periods and of Eastern Iran and Central Asia, 5) ISBN 0-7286-0248-2.

(BSBS F3.2.3.001, Lib. A226.3/SA/10)

本書には、以下11点のテキストが収録されている。

"Adhyardhaśatikā", "Anantamukhanirhāradhāraṇī", "Avalokiteśvaradhāraṇī", "Bhaiṣajyaguruvaiḍūryaprabharājasūtra", "Jñānolkadhāraṇī", "Ratnakūṭa", "Saddharma-puṇḍarīkasūtra", "Saṅghātasūtra", "Suvarṇabhāsottamasūtra", "Vimalakīrtinirdeśasūtra", "Zambasta".

ロシア所蔵分も含むコータン語写本全般の書誌学的研究としては、Ronald E. Emmerick (1937-2001)<sup>110</sup>、熊本裕<sup>111</sup>等の論著がある<sup>112</sup>。

トカラ語写本について東洋写本研究所から目録は出版されていないが、

<sup>108</sup> Yoshida 1986, p. 204.

<sup>109</sup> Yoshida 2015b.

<sup>110</sup> Emmerick 1992.

<sup>111</sup> Kumamoto 1986. テキストの大正蔵との対応箇所も示されている。同氏には、古・中期イラン語研究の研究史に関する論考もある。Kumamoto 1983.

<sup>112</sup> 詳細は、BSBS F3.1 を参照。

Melanie Malzahn と荻原裕敏の論考により<sup>113</sup>、所蔵資料の内容と研究状況を知ることができる。荻原の調査によると、トカラ語 A と B 合わせて 300 点を超える写本断片を確認したとのことであり、比定できた "Buddhastotra", "Udānavarga", "Udānastotra", "Vessantara-jātaka" のテキストの翻字、翻訳、研究資料を提供し、その他に律蔵文献の所在も報告している。

ウイグル語写本・版本については、東洋文庫から目録の第 1 冊が刊行されるとともに、東洋文庫と東洋写本研究の Website にて PDF が公開された。この目録編纂には、梅村坦も加わっている。

### 1-019.

Catalogue of the old Uyghur manuscripts and blockprints in the Serindia collection of the Institute of Oriental Manuscripts, RAS (Katalog drevneūgurskikh rukopisei i ksilografov Serindiiskogo fonda Instituta vostochnykh rukopisei RAN), 1. Comp. by Olga Lundyshva, Anna Turanskaya, Hiroshi Umemura. Ed. by Peter Zieme. Tokyo: Toyo Bunko, 2021. xl, 386 p. (With illus.) ISBN 978-4-8097-0306-5.

<http://doi.org/10.24739/00007487>

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1722](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1722)

(BSBS F4.2.6.007, Lib. R180.320/LU/1)

仏典は第 2 章より第 6 章に収録され、大乘経典、アビダルマ論書、中国疑偽経典、タントラ経典、その他の仏典と分類されている。記述内容は、資料番号、収集者、出土地、写本・版本の別、書体、フォーマット、サイズ、行数、用紙等の情報の他、校訂本と写真版に関する出版情報、サンスクリット本や漢語テキストの所在情報、他機関所蔵の該当テキストの情報も記載される等、内容の充実した優れた目録である。また、'Serindia Collection' に関する概要も記述されている。

Berezovsky と Krotkov コレクション所収のブラーフミー (Brāhmī) 文字で筆写されたサンスクリット語、トカラ語 A・B、ウイグル語の写本断片 42 点の研究も進捗している<sup>114</sup>。

敦煌出土チベット語写本は、1911 年に第一便がサンクトペテルブルク

<sup>113</sup> Malzahn 2007, Ogihara 2018.

<sup>114</sup> Lundyshva, Maue, Wille 2021.

に到着し、アジア博物館に納入された。送り主はウルムチのロシア領事、N.N. Krotkov であった。1913年に200点以上の写本がサンクトペテルブルクに到着したが、収集した人物は特定されていない。1917年にKrotkov収集の折り本2点がアジア博物館に納入された<sup>115</sup>。S.F. Oldenburgは第2次ロシア・トルキスタン探検において敦煌の莫高窟を訪れ、1914年8月18日より12月31日までの調査で写本断片を収集し、1915年1月28日に敦煌を出発、同年4月23日にサンクトペテルブルクに到着した。収集資料は、戦争の影響で長くシベリア西端のオムスクに差し止められていたが、同年の夏の終わりにサンクトペテルブルクに届き、アジア博物館に納入されたのは9月1日であった<sup>116</sup>。写本は「敦煌コレクション」(Dun'khuanskii fond)として管理されている。資料記号は'Dx. Тиб.' (Dkh. Tib.)である。目録は東洋写本研究所のL. S. Savitsky (1932-2007)<sup>117</sup>により出版された。

#### 1-020.

L. S. Savitskii: *Opisanie tibetskikh svitkov iz Dun'khuaana v sobranii Instituta vostokovedeniia AN SSSR* [Description of Tibetan scrolls from Dunhuang in the Institute of Oriental Studies of the USSR Academy of Sciences]. Moskva: Nauka, 1991. 128 p. ISBN 5-02-016565-4.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=76](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=76)  
(BSBS D4.3.001, Lib. 829.320/SA)

内容は、202点がチベット語訳『無量寿宗要経』(Aparimitāyur-nāma-mahāyāna-sūtra)、10点がチベット語訳『般若心経』(Prajñāpāramitā-hṛdaya-sūtra)であり、ローマナイズされたタイトルのもとに写本の形状やコロフォンに記述された写経生の名前等が記載されている。A. Stein (1862-1943)が1907年に、P. Pelliot (1878-1945)が1908年に敦煌を訪れ、多くの写本を収集した後だけに、中国の各機関が所蔵するチベット語敦煌写

<sup>115</sup> Zorin 2020, p. 77.

<sup>116</sup> Popova 2008b, p. 165-168.

<sup>117</sup> Savitskyに関する情報についてはBSBS, M3.071を参照。

経<sup>118</sup>と同様、テキストの種類は限定的である。大谷探検隊も 1912 年に敦煌にて写本収集をしている。

Oldenburg は、敦煌の莫高窟にて 20,000 点を超える漢語仏典を収集したが、小さな断片類も多い。矢吹慶輝（1879-1939）<sup>119</sup>は、1916 年 12 月にアジア博物館を訪問し、Oldenburg コレクションを閲覧する幸運に恵まれ、短期間ではあるが数百点の古写本を調査した。もし 1 年遅ければ、ロシア革命の勃発により、この訪問は実現しなかったであろう。矢吹は帰国後、重要と看做される古逸の 16 点の後記と跋類のある仏典写本と版本のリストを 1917 年 5 月に出版した<sup>120</sup>。このリストについては、高田時雄の論考があり、矢吹論文は、Oldenburg 将来敦煌写本に関する最初の報告であったが、永らく学界から注目されなかったことを指摘している<sup>121</sup>。

写本の記号は 'Дх' (Dkh, Dunkhuang) が付与されているが、当初、中国学と書誌学の専門家 K. K. Flug（1893-1942）<sup>122</sup>により写本整理が進められたため、Flug 整理分については写本記号 'Ф' (F) が付与されている<sup>123</sup>。目録は中国学・敦煌学者の L. N. Menshikov（1926-2005）<sup>124</sup>を代表とする複数の研究者により編纂され、中国語訳も出版された。この中国語訳では、原書刊行後の研究成果により記述内容が改訂され、若干の写本について新たにテキスト名が比定されている。

<sup>118</sup> 各機関の目録情報の詳細は、BSBS D4.4. Collections in China 参照。

<sup>119</sup> 同氏には敦煌写本を利用した『三階教之研究』（東京、1927 年刊）『鳴沙餘韻 敦煌出土未傳古逸佛典開寶』（東京、1930-1933 年刊）等の著書がある。

<sup>120</sup> Yabuki 1917. 矢吹慶輝は、ロシア訪問前ロンドンにてスタインコレクションも調査し、珍本・散逸仏典の目録を出版した。Yabuki 1917-1918.

<sup>121</sup> Takata 2016, p. 306. 梅村坦の敦煌の探検史と研究史をまとめた秀作に Yabuki 1917-1918 は報告されているが、Yabuki 1917 への言及はない。Umemura 1980. ロシアにおける最初の出版は、F. A. Rosenberg（1867-1934）によるソグド語仏典 2 点についての研究であった。Popova 2008b, p. 172.

<sup>122</sup> Flug の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.6.003 を参照。

<sup>123</sup> Flug は、漢語仏典 161 点に関する解説目録を出版している。Flug 1936.

<sup>124</sup> Menshikov の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.6.016 を参照。



**1-021.**

Opisanie kitaiskikh rukopisei Dun'khuauskogo fonda Instituta narodov Azii [Description of the Chinese manuscripts of the Dunhuang foundation of the Institute of the Peoples of Asia], vypusk 1-2. M. I. Vorob'eva-Desiatovskaia [i dr.]. Pod. red. L. N. Men'shikova. Moskva: Izd-vo Vostochnoi Literatury, 1963-1967. 774, 688 p.

v. 1: [http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=481](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=481)

v. 2: [http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=551](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=551)

(BSBS G5.2.3.001, Lib. R180.321/VO/1-2)

Reprinted under the title "蘇俄所劫敦煌卷子目錄" published by Hsin-wên-fêng ch'u-pan-shê in Taipei, [1985]. (敦煌叢刊初集, 11-12)

(BSBS G5.2.3.001, Lib. R180.321/VO)

中国語訳：俄藏敦煌漢文寫卷叙録, 2 vols. 袁席箴 陳華平 翻譯. 上海：上海古籍出版社, 1999.

(BSBS G5.2.3.001.1.1, Lib. R180.321/VO/1-2)

本目錄は編纂者の名前に因んで、通称『メンシコフ目錄』と呼ばれている。仏典は、第1冊はNos. 1-1415、第2冊はNos. 1708-2808に収録されている。配列は大正蔵のテキスト番号順であり、書誌記述は、仏典名、大正蔵の対応箇所、『南條目錄』等と、スタイン本の『ジャイルズ目錄』(London, 1957)、北京本の『敦煌劫余録』(北平, 1931)の該当典籍番号、形態等であり、テキストの冒頭と末尾部分を転記する。巻末には、書名索引をはじめとする索引類、'Дх'、'Ф'番号と配列番号とのコンコーダンスが付されている。

本コレクションの写真版も出版された。

**1-022**

俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所藏敦煌文獻 (Dunhuang manuscripts collected in the St. Petersburg Institute of Oriental Studies of the Academy of Sciences of Russia), 17 vols. 上海：上海古籍出版社, 1992-2001. (敦煌吐魯番文獻集成 = Corpus des manuscrits de Dunhuang et de Turfan).

Ф001-366, Дх001-19092.

(BSBS G5.2.3, Lib. F1 大藏經 222.80/TO)

この写真版に基づく最新目録が敦煌研究院の研究員により 2019 年に出版された。写本の資料番号順に記述されているため、巻末に漢字の画数順のタイトル索引を付す。

#### 1-023.

俄藏敦煌文献叙録 (Catalogue of Dunhuang manuscripts in Russian collections). 邵惠莉 主編. 蘭州: 甘肃教育出版社, 2019. 3, 1, 1120 p. ISBN 978-7-5423-4320-8. (BSBS G5.2.3.022, Lib. R222.80/TA)

本学附属図書館は、大正蔵と東洋写本研究所所蔵敦煌出土漢語写本との対応を写真版に基づき調査し、大正蔵のテキスト番号順に対応個所を一覧にしたコンコーダンスを 2005 年に刊行した。

#### 1-024.

大正蔵・敦煌出土仏典対照目録 ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支所所蔵仏典 (A concordance to the Taishō canon and the Dunhuang manuscripts: The Dunhuang manuscripts collection in the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences). 東京: 国際仏教学大学院大学附属図書館, 2005. xv, 142 p. (大蔵経対照目録 (The Taishō canon concordance series), 2)  
(BSBS G1.2.25.008, Lib. F1 大蔵経 222.80/TO)

第 1 部が対照目録、第 2 部が大正蔵に収録されていない仏典の一覧、第 3 部が敦煌出土仏典・大正蔵典籍番号対照表である。その翌年、パリのペリオコレクションを追加し第 2 版を刊行、そしてロンドン、北京のコレクション、中国や日本、台湾、フィンランド等に所蔵される小規模なコレクションの調査結果を加え、2015 年に暫定第 3 版を電子出版として本学附属図書館の学術成果コレクションに公開した<sup>125</sup>。

特定分野の書誌学的研究として、禅籍については次の研究があり、特に後者の論考は詳細である<sup>126</sup>。

#### 1-025.

<sup>125</sup> <http://doi.org/10.15056/00000331>

<sup>126</sup> 程正は、田中良昭と共に敦煌出土禅宗文献の分類目録を編纂している。Tanaka, Cheng 2014.

中西久味 [Hisami NAKANISHI]: 『俄藏敦煌文献』 禅籍資料初探 [First survey of ch'an texts found in "Dunhuang manuscripts in Russian collections"]. In: 比較宗教思想研究, 5 (Niigata, 2005), 61-78.

<http://hdl.handle.net/10191/6040>

(BSBS G5.3.2.012)

**1-026.**

程正 (Cheng Zheng): 俄藏敦煌文献中に発見された禅籍について (Chan texts found in Dunhuang (敦煌) manuscripts of the Russian collections). In: 禅学研究 (Studies in Zen Buddhism), 83 (2005), 17-45; 駒沢大学仏教学部論集 (Journal of Buddhist Studies), 39 (2008), 377-398; 駒澤大學禅研究所年報 (Annual Report of the Zen Institute), 32, 1 (2020), 104-87; 駒澤大學佛教學部研究紀要 (Journal of the Faculty of Buddhism), 79 (2021), 144-129.

<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/?lang=0>

(BSBS G5.3.2.010)

『維摩經』については、下記の目録に東洋写本研究所所蔵写本が収録されている。

**1-027.**

江素雲 : <維摩詰所説經> 敦煌寫本綜合目録 [Union catalogue of the Dunhuang manuscripts of the Weimojiesuoshuojing]. 台北 : 東初出版社, 1991. i, 10, 87 p. (東初智慧海叢刊, 22)

(BSBS B3.2.3.1.002, Lib. R180.321/KO)

本目録の構成は、第一部がスタイン本、ペリオ本、北京本の総合目録、第二部がサンクトペテルブルクコレクションの目録 (p. 72-75)、第三部が小規模なコレクションの目録、最後が『敦煌遺書最新目録』と本目録番号とのコンコーダンスである。内容は、写本番号、『維摩經』の品名、大正蔵の対応箇所であり、配列順序は大正蔵のテキスト番号順で、70点余を収録する。

敦煌出土漢語写本への他のコレクションからの紛れ込みについて、ト

ルファン出土文献については關尾史郎<sup>127</sup>、ハラホト出土文献については榮新江の論考<sup>128</sup>がある。

東洋写本研究所在所蔵の敦煌出土写本研究はじめ、ロシアにおける敦煌学論著目録も Menshikov により 1993 年に出版され、133 点を収録する。

**1-028.**

L. N. Men'shikov: Spisok rabot dunhuanovedeniū, opublikovannykh rossiiskimi uchenymi (A list of Russian works on Dunhuang). In: Peterburgskoe Vostokovedenie (St. Petersburg Journal of Oriental Studies), 4 (1993), 344-355.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=660](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=660)

(BSBS G5.2.3.009)

東洋写本研究所在所蔵の敦煌写本に関するロシアと中国における研究成果を中心とし、日本とフランスにおける論著も含む文献解題と、その姉妹編である文献目録が中国社会科学院の研究員により出版された。

**1-029.**

楊寶玉 陳麗萍 [Yang Pao-yü, Ch'ên Li-p'ing]: 俄藏敦煌文獻研究述評 [Review of researches on the Dunhuang manuscripts in Russia]. In: 敦煌學國際聯絡委員會通訊 (Newsletter of International Liaison Committee for Dunhuang Studies), 2011, 46-67.

(BSBS G5.2.3.019)

陳麗萍 楊寶玉 [Ch'ên Li-p'ing, Yang Pao-yü]: 俄藏敦煌文獻研究論著目録 (1918-2010 年) [Bibliography of books and articles on the Dunhuang manuscripts in Russia (1918-2010)]. In: 敦煌學國際聯絡委員會通訊 (Newsletter of International Liaison Committee for Dunhuang Studies), 2011, 174-191.

(BSBS G5.2.3.018)

『研究述評』では、敦煌コレクションに誤って混入されていたトルファンやハラホト出土文献に関する論著と近年新たにテキスト名が同定された写本に関する論著に対する解説にて、当該資料の写本番号が記載されていて至便である。しかしながら、『論著目録』と同様、ロシア語とフランス語の雑誌論文について、著者名は中国語音の漢字に変換され、

<sup>127</sup> Sekio 2001.

<sup>128</sup> Rong 2010.

書名、収録誌は中国語に翻訳されていて、原綴りが表記されていないため、専門家でない限り、当該資料の特定は困難である。各論著のページ数の記載もない。『論著目録』ではロシア語の論文について、中国語訳が出版されている場合は、翻訳論文を収録し、原著の記載がなく、上記文献番号 1-028 も参照されていないようで、書誌学的研究としては問題点が多く、改善が求められる。

N. N. Krotkov がトルファンで収集した漢語版本断片については西脇常記の研究があり、目録も出版されている<sup>129</sup>。

ロシアの探検家 P. K. Kozlov は 1907 年より 1909 年までの四川・モンゴル探検で<sup>130</sup>、ハラホト (Khara-Khoto 黒水城、カラホトとも言う) を訪れ、廃墟にてサンスクリット語<sup>131</sup>、チベット語、ウイグル語、モンゴル語<sup>132</sup>、西夏語、漢語の写本・版本を発見し、収集した資料を Санкт-Петербург に送り、1911 年 4 月 20 日にアジア博物館に納入された<sup>133</sup>。A. Stein の 1913 年から 1915 年の第 3 次中央アジア探検におけるハラホト訪問に先行していたので、スタインコレクションよりも状態の良い資料が含まれている<sup>134</sup>。サンスクリット語とウイグル語写本・版本は 'Serindia Collection' に分類されている。ハラホト出土チベット語写本・版本については、いくつかの研究報告がされているが<sup>135</sup>、目録は出版されていない。東洋写本研究所では 2018 年よりハラホト出土チベット語写本・版本の目録化プロジェクトが開始されているので<sup>136</sup>、総合目録 (文献番号 1-010) の一部として、目録の刊行が見込まれる。資料記号は、'XT' (KhT, Khara-Khoto Tibetskii) である。本コレクションの一部分には、他のコレクションから

<sup>129</sup> Nishiwaki 2016, 第 3 章 ロシア・クロトコフ蒐集漢語版本について (附目録)

<sup>130</sup> 探検報告書は、1923 年に出版された。Kozlov 1923. ハラホトにおける資料収集については同書第 4 章を参照。

<sup>131</sup> Pala と siddham 文字の仏典版本について研究報告されている。BSBS 1.2.3.8.4. Blockprints from Khara-khoto (Kozlov Collection) 参照。

<sup>132</sup> Kara 2003.

<sup>133</sup> Zorin & Sizova 2019, p. 8.

<sup>134</sup> Iuchi 2011, p. 37.

<sup>135</sup> BSBS, D5.2. St. Petersburg Collection 参照。

<sup>136</sup> Zorin & Sizova 2019, p. 12.

紛れ込んだ資料もあり、逆に他のコレクションにハラホト出土資料が見出されることもある。特に敦煌出土写本の紛れ込みが多く、それらの資料を本来のコレクションに移し、旧資料番号を欠番とし、新たな資料番号が付与されている<sup>137</sup>。

Kozlov収集の西夏語写本・版本の数量は8,000点を超え、東洋写本研究所の「タングートコレクション」(Tangutskǐ fond)として管理されている。資料記号は'Tang'である。

西夏語資料の簡略なリストは1932年に三人の共編で出版された<sup>138</sup>。編者の一人は1915年に日本に留学し、その後、小樽高等商業学校（現在の小樽商科大学の構成母体）、大阪外国語学校（後の大阪外国語大学）で教鞭を執り、1929年まで日本に滞在していた N. A. Nevsky (1892-1937)<sup>139</sup>である。Nevsky は、1927年より 1933年までに石濱純太郎 (1888-1968) との共著で西夏語仏典に関する5点の論文を出版しているが<sup>140</sup>、西夏語学者 Nevsky の誕生には、大阪在住時代に親交を得た、石濱純太郎の存在が大きく関わっている。Nevsky に関する詳細な伝記が加藤九祚により出版されているので参照されたい<sup>141</sup>。また、大阪外国語大学は Nevsky の業績を顕彰して資料集を2003年に刊行した<sup>142</sup>。

西夏語写本・版本の仏典目録は、京都大学言語学研究室と東洋写本研

<sup>137</sup> 詳細は Zorin & Sizova 2019, Appendix を参照。

<sup>138</sup> Dragunov, Nevsky, Wang 1932.

<sup>139</sup> Nevsky は東洋学研究所の研究員となり、やがて西夏学の専門家としてロシア科学アカデミー通信会員となったが、日本のスパイと見なされ、粛清により前述の Tubyansky と同日の 1937 年 11 月 24 日に銃殺された。同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.5.002 を参照。ロシアにおける西夏語研究のバイオニアであり、Nevsky の師 A. I. Ivanov (1877-1937) も同年 10 月 8 日に銃殺されている。Ivanov の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.5.001 を参照。

<sup>140</sup> Ikuta 2003, p. 250-253.

<sup>141</sup> 本書には初版本 (1976 年刊) と完本 (2011 年刊) がある。初版本では、ロシアの公式発表に基づき、Nevsky の死亡日を 1945 年 2 月 14 日と記述していたが、完本にて訂正されている。Katō 2011, p. 340. 石濱純太郎との親交については、同書第 8 章第 3 節 石濱純太郎との出会い。西夏語の研究を参照。

<sup>142</sup> Ikuta 2003. 本書は Nevsky の著作目録を付す。

究所の学術協力で京都大学から出版された。東洋写本研究所の E. I. Kychanov (1932-2013)<sup>143</sup>が目録を記述し、荒川慎太郎が索引を作成、西田龍雄 (1928-2012) の論考『西夏語仏典目録編纂上の諸問題』を序文として付したものである。現在、東洋写本研究所の Website にて PDF が公開されている。

### 1-030.

Katalog tangutskikh buddiiskikh pamiatnikov Instituta vostokovedeniia Rossiiskoi Akademii Nauk [Catalogue of the Tangut Buddhist texts kept at the Institute of Oriental Studies of the Russian Academy of Sciences]. Sostavitel' E. I. Kychanov, Vstupitel'naia stat'ia T. Nisida, Izdanie podgotovleno S. Arakava. Kyoto: Universitet Kioto, 1999. XLIX, 792, [5] p. (with illus.)

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=651](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=651)

(BSBS F6.2.4.1.1.002, Lib. R180.321/KY)

西夏語仏典は、漢訳かチベット訳からの重訳であるため、テキストの書誌記述に加え、大正蔵か Derge 版チベット大蔵経の対応個所を示す。書誌記述の詳細は、上記の西田論文を参照されたい。配列順序は、漢訳経典からの重訳テキストについては大正蔵のテキスト番号順、チベット訳からの重訳テキストについては Derge 版チベット大蔵経のテキスト番号順となっている。

テキストの写真版も刊行中である。下記 1-031 の第 15 冊からが西夏語仏典であり、現在第 30 冊 (2021 年) までが出版されている。テキストの配列順序は、漢訳経典からの重訳テキストについては、大正蔵でなく金蔵のテキスト番号順であり、目録とは異なるため、最終巻で大正蔵番号とのコンコーダンスの提供が望まれる。

### 1-031.

俄羅斯科學院東方文獻研究所藏黑水城文獻 (Heishuicheng manuscripts collected in the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of the Russian

<sup>143</sup> Kychanov の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M5.5.005 を参照。

Academy of Sciences). 上海：上海古籍出版社。

Buddhist texts: Vol. 15 (2011)-

(BSBS G6.1.1, Lib. F1 大藏経 222.80/TO)

この西夏語写本・版本コレクションは、2007年 British Library が推進する "Endangered Archives Programme (EAP)" の No. 140 として採択され、4,600 点の写本と 3,765 点の版本のデジタル化が図られている。

Preservation through digitisation of the Tangut collection at the Institute of Oriental Studies, St Petersburg Branch, Russian Academy of Sciences (EAP140)

<https://eap.bl.uk/project/EAP140>

(BSBS F6.2.4.1.1.014)

ハラホト出土漢語仏典については、L. N. Menshikov により 1984 年に目録が刊行され、その中国語訳が 1994 年に出版された。

### 1-032.

L. N. Men'shikov: Opisaniie kitaïskikh chasti kolleksiï iz Khara-khoto (fond P. K. Kozlova) [Description of Chinese part of the collection from Khara-Khoto (P. K. Kozlov fund)]. Prilozheniia sostavil L. I. Chuguevskii. Moskva: Izd-vo Nauka, 1984. 526 p.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=77](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=77)

(BSBS G6.1.1.001, Lib. R222.80/ME)

中国語訳：黒城出土漢文遺書叙録。王克孝訳。銀川：寧夏人民出版社，1994. 4, 4, 318 p., 36 p. of plates.

(BSBS G6.1.1.001, Lib. R222.80/ME)

本目録は大正蔵のテキスト番号順に配列され、写本、版本の別、書誌記述の他、大正蔵との対応箇所も記載されている。巻末に配列番号と資料番号のコンコーダンスが付されている。488 点中 283 点が仏典である。資料記号は、'TK' (Tangutskii Kitaïskii) である。

写真版も上記文献番号 1-031 の第 1 冊から第 6 冊に出版されている。配列は資料番号順であり、第 6 冊には、敦煌写本コレクションはじめ、誤って他のコレクションに収蔵されていたテキストを収録している。また巻末に叙録があり、文献番号 1-032 の Menshikov 目録、中国語訳の記述に基づくが、目録刊行後の研究成果を踏まえて記述内容が増補改訂されて



いる。

東洋写本研究所在所蔵する写本・版本に関する多くの研究論文は、同研究所が出版する学術誌にて公表されている。それら学術誌は、一部を除き、同研究所のロシア語版と英語版の Website で公開されている。英語版は英文雑誌のみであり、ロシア語版は英文・露文の両者を公開しているので、ロシア語版の利用を推奨する<sup>144</sup>。

## 2. ロシア国立図書館（National Library of Russia<sup>145</sup>）

1795年に創立したロシア国立図書館は、19世紀中頃に東洋語写本・版本の目録を出版した。編纂者は、第2代アジア博物館館長（1842-1881年在任）で、後にロシア科学アカデミー院長となったドイツ出身の東洋学者 Boris Andreevich Dom（Scheierfeld 1805-1881 St. Petersburg）<sup>146</sup>と後に長くロンドンのインド省図書館（India Office Library）のライブラリアンとして活躍した同じくドイツ人学者 Reinhold Rost（Eisenberg 1822-1896 Canterbury）である。

### 2-001.

[Boris Andreevich Dom et Reinhold Rost]: Catalogue des manuscrits et xylographes orientaux de la Bibliothèque impériale publique de St. Pétersbourg. St. Pétersbourg: Académie impériale des sciences, 1852. XLIV, 719 p.

Reprinted in Leipzig, 1978.

<https://archive.org/details/cataloguedesman00rostgoog/page/n10/mode/1up>

(BSBS D2.2.20.2.001, Lib. R929.031/CA)

数量はさほど多くないが、モンゴル語とチベット語の写本・版本仏典（Nos. 843-847, 850-858, 901）とパーリ語写本仏典（Nos. 881-884）が収録されている。資料の来歴への言及はないが、パーリ語写本仏典については、

<sup>144</sup> [http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_content&task=view&id=308&Itemid=91](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_content&task=view&id=308&Itemid=91)

<sup>145</sup> 1992年からの名称である。旧称は、The Imperial Public Library in St. Petersburg、(the M. E. Saltykov-Shchedrin) State Public Library である。

<sup>146</sup> Domの業績、評伝等の著作に関する書誌情報についてはBSBS M1.20.005を参照。

テキストの内容が詳しく解説されている。本書の序論には、19世紀中頃までにヨーロッパで刊行された東洋学関係写本・版本に関する書誌学的研究成果が網羅されていて有益である。

ロシア・インド学派の創始者 Ivan Pavlovich Minaev (1840-1890)<sup>147</sup>は、ロシア地理学協会の援助により、1874-1875年、1879-1880年、1885-1886年と3回の調査旅行を行い、ネパール、インド、セイロン、ビルマを訪問し、約 300 点の写本を収集した<sup>148</sup>。1885年のビルマ訪問では多くのパーリ語写本を収集している。これらの写本は、研究者が利用する国立図書館に譲渡し、広く研究者の利用に供したいとの同氏の遺志に基づき、逝去後 1891年に国立図書館に納入された<sup>149</sup>。この Minaev 収集写本を主体とするインド語写本の目録第1冊が1918年、N. D. Mironov により出版された。目録の記述内容は、東洋写本研究所の目録に準拠している。

## 2-002.

Katalog" indīskikh" rukopisei Rossiiskoi publichnoi biblioteki: sobranie I. P. Minaeva i miekotoryia drugia [Catalogue of the Indian manuscripts in the Russian Public Library: collection of I. P. Minaev and some others], 1. Sostavil" N. D. Mironov". Petrograd": Tipografiia Imperatorskoi Akademii Nauk", 1918. ii, 288 p.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=10543](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=10543)

(BSBS B1.2.1.12.2.001, Lib. K929.8100/M)

サンスクリット語仏典写本は、III: Buddhica に30点 (Nos. 276-305, Minaev nos. 185-213) が収録されていて、すべて Minaev 収集ネパール系写本である。仏典以外の写本を含め、総計305点中 Minaev 収集写本は213点である。前述したように、Daniel Wright 収集サンスクリット語仏典写本がアジア博物館とサンクトペテルブルク大学図書館に届いたのは1873年8月であり、当時サンクトペテルブルク大学教授であった Minaev は、少なくとも

<sup>147</sup> Minaev の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS M1.20.011 を参照。Bongard-Levin & Vigasin, 1984, p. 82-97: Ivan Minayev, founder of Russian Indology も参考にした。

<sup>148</sup> Ermakova 2019, p. 95-96.

<sup>149</sup> Ermakova 2019, p. 97.

同大学図書館送付分4点の写本を閲覧していた筈である。Minaev がネパールを訪問したのは、その翌年1874年から1875年の第一回調査旅行中である。Minaev がカトマンドゥ訪問を前後する時期に Daniel Wright から Minaev へ送られた書簡8通（1875年1月23日付から6月26日付）の翻刻が近年出版された<sup>150</sup>。インドからネパール行きの旅程の案内や、旅行に必要な諸々の手配に関する内容ばかりでなく、サンスクリット語仏典写本の入手に関する照会や、既に複製した写本の送付の件まで書簡を通してやり取りしていることが知られる。書簡の文面により、Minaev は3月10日頃インドとネパールの国境に到着したようであり、Daniel Wright は4月12日付で、ベナレスに戻った Minaev 宛に書簡を送っているので、Minaev のネパール滞在は短期間であった。Minaev のネパールにおける写本収集は Daniel Wright の協力の下でなされた。Daniel の兄 William より 1873年から1884年にかけて Minaev へ送られた書簡も翻刻出版されている<sup>151</sup>。文面より両者は旧知の仲であったことが知られ、弟 Daniel は両者の関係に配慮した対応であったと推察される。1873年 9月 23日付の書簡にて<sup>152</sup>、William は Minaev からの問い合わせに対して Daniel の近況を知らせていることから、この時点で Minaev は、ネパール訪問を計画していたものと推測される。William は1876年、ロシア科学アカデミー外国人通信会員に選出された<sup>153</sup>。

前述の通り、目録第2冊は出版されなかったため、その他のサンスクリット語仏典写本と Minaev が収集したパーリ語写本の所蔵状況は不明であったが、スリランカのペラデニア大学名誉教授、Ratna Handurukande によりシンハラ文字写本の目録が出版された。

### 2-003.

Ratna Handurukande: The Minayev collection of manuscripts in the State Public Library in St. Petersburg (Leningrad). In: Sri Lankan Journal of the Humanities, 16, 1 & 2 (1990),

<sup>150</sup> Ermakova 2017b.

<sup>151</sup> Ermakova 2017a.

<sup>152</sup> Ermakova 2017a, p. 70.

<sup>153</sup> Ermakova 2017a, p. 68.

195-214.

<http://dlib.pdn.ac.lk/handle/123456789/1969>

(BSBS C1.2.15.1.002)

パーリ語、シンハラ語、サンスクリット語の写本42点を収録する。サンスクリット語写本は仏典である。

Minaev がビルマで収集した写本については、未だ詳細は不明であり、早期に目録が出版されることが望まれる<sup>154</sup>。

モンゴル語資料については、以下の目録が刊行されているが、筆者未見の資料である。

## 2-004.

E. N. Sankrit'iaiana: Kratkī sistematičeskī katalog mongol'skikh rukopisei i ksilografov Gosudarstvennoī Publichnoī biblioteki im. M. E. Saltykova-Shchedrina [Brief and systematic catalogue of the Mongolian manuscripts and xylographs in the M. E. Saltykov-Shchedrin State Public Library]. In: Vostochnyī sbornik, 3 (Moskva, 1972), 86-98.

(BSBS [E2.2.15.2.001])

中見立夫は、この目録について『国立図書館の蔵書はあまり重要なものではない』と評している<sup>155</sup>。V. L. Uspensky によると、国立図書館のチベット語とモンゴル語のコレクションは小規模で、数十点と記述する<sup>156</sup>。

## 3. サンクトペテルブルク国立大学図書館 (St. Petersburg University Library)

ロシアの大学に初めて東洋学部が開設されたのがカザン大学であるが、1855年サンクトペテルブルク大学に移管され、図書等の資料もすべて移された<sup>157</sup>。カザン大学時代に収集された写本・版本の目録は、1833年に

---

<sup>154</sup> Minaev のビルマ訪問 (1886年1-2月) については、旅行日記のロシア語文 (1955年刊) と英訳 (刊年不明) が刊行され、Minaev が多くの写本を閲覧したことは記述されているが、購入した写本でテキスト名が確認できるのは、*Sumaṅgalavilāsini* のみである。Minaev 1955, p. 161, Minayeff [刊年不明], p. 183.

<sup>155</sup> Nakami 2000, p. 3.

<sup>156</sup> Uspensky 1996, p. 178.

<sup>157</sup> サンクトペテルブルク大学での初代学部長は A. V. Popov である。Valeev 2020, p. 434.

東洋学部モンゴル語講座をロシアとヨーロッパにおいて最初に開設した、ポーランド人でロシア・モンゴル学創始者の一人 Josef Kowalewski (Lewków 1801-1878 Warsaw) <sup>158</sup>により 1834 年に出版された。

### 3-001.

Katalog "sanskritskim", mongol'skim", tibetskim", man'dzhurskim" i kitaïskim" knigam" i rukopisiam", v" Bibliotekie Imperatorskago Kazanskago Universiteta Khраниashchimsia [Catalogue of Sanskrit, Mongolian, Tibetan, Manchu and Chinese books and manuscripts kept at the Library of Imperial Kazan University]. In: Uchenye zapiski Imperatorskogo Kazanskago Universiteta, 2 (1834), 263-292.

(BSBS B1.2.1.12.3.001, Lib. K829.00/KA)

このコレクションは Kowalewski が 1823 年より 1833 年にかけて、外バイカル地方と北京において、仏典版本を主として収集した資料で、カザン大学に納入したものである<sup>159</sup>。仏典は、Nos. 22-124 に収録され、資料のタイトルはキリル文字で記述され、タイトルのロシア語訳、写本、版本の別、記述言語等を記載する。

カザン大学モンゴル語講座担当教員となる Alexandr Vasilyevich Popov (1808-1865) も Kowalewski とともに外バイカル地方に 4 年間滞在し、モンゴル語を学習するとともに、ブリヤート人やカルムイク人が書写した写本を収集した<sup>160</sup>。

Kowalewski コレクションについては、V. L. Uspensky がこの目録に基づ

---

<sup>158</sup> Kowalewski は1835年にカザン大学教授、学部長となって講座が開始され、1855年から1860年まで学長、1862年に現在のワルシャワ大学へ移り、歴史文献学部長となり、同地にて1878年に逝去した。Valeev 2020, p. 433-434. 同氏の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M4.003 を参照。

<sup>159</sup> Nakami 2000, p. 3. Kowalewski はブリヤートのキャプタで Paul Schilling と助手の N. Bichurin (1777-1853) に会っている。Zorin 2020, p. 44. 同氏のチベット語とモンゴル語資料のコレクションの一部は、リトアニアの Vilnius University Library にも所蔵されている。文献番号 10-001 参照。

<sup>160</sup> V. L. Uspensky が目録を出版している。Uspensky 2007. 文献番号 3-006, p. 173 も参照。

き、その詳細を報告し、後述する文献番号 3-005 の該当番号も記載する。

### 3-002.

V. L. Uspenskiĭ: Kolleksiia O. M. Kovalevskogo v sobranii vostochnykh rukopisi i ksilografov biblioteki Sankt-Peterburgskogo universiteta [The O. M. Kowalewsky collection in the holdings of Oriental manuscripts and xylographs of the St. Petersburg University Library]. In: Mongoloved O. M. Kovalevskii: biografiia i nasledie (1801-1878). Kazan': Alma-Lit, 2004. p. 231-250.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/a\\_uspensky\\_2004.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/a_uspensky_2004.pdf)

(BSBS E2.2.15.4.006, Lib. 222.6/VA)

同図書館には、モンゴル学者でサンクトペテルブルク大学教授 Alekseĭ Matveevich Pozdneev (1851-1920) <sup>161</sup>が 1892年、内モンゴルにて発見した 113巻のモンゴル語黒字写本 (Black manuscript) Kanjur が所蔵されている。これは、モンゴル帝国皇帝 Ligdan Khan (1588-1634) の勅命により 1628年から 1629年にかけて作成された写本 Kanjur の系統である。この系統本について、古くはドイツの Friedrich Weller (1889-1980) や Walther Heissig (1913-2005) により研究されていたが、1993年に Z. K. Kasyanenko (1925-2016) <sup>162</sup>が目録を出版した。

### 3-003.

Katalog peterburgskogo rukopisnogo "Gandzhura" [Catalogue of the St. Petersburg manuscript Kanjur]. Sostavlenie, vved., transliteratsiia i ukazateli Z. K. Kas'ianenko. Moskva: 1993. 382 p. (Bibliotheca Buddhica, 39)

(BSBS E1.2.2.1.001, Lib. R180.321/KA)

この目録には、タイトル索引とコロフォンに記述された人名、翻訳者、写経生、地名の索引が付されている。

Kasyanenko 女史による長年の写本 Kanjur 研究は、スイス、ベルン大学の Karénina Kollmar-Paulenz (b. 1958) やサンクトペテルブルク国立大学の

<sup>161</sup> Pozdneev の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M4.006 を参照。

<sup>162</sup> Kasyanenko の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M4.035 を参照。

Kirill Alekseev (b. 1966) はじめ、ロシアを中心とする若手研究者に引き継がれ、フフホトの内モンゴリア自治区社会科学院 (Inner Mongolia Academy of Social Science) や東洋写本研究所が所蔵する金字写本 (Golden manuscript) Kanjur、後述のロシア科学アカデミーシベリア支局・モンゴル学仏教学チベット学研究所やヨーロッパに所蔵される黒字写本 (Black manuscript) Kanjurの全体的な調査が進捗し、国際研究集会が開催されるまでに至り、下記の報告書も2017年に出版された。

### 3-004.

Mongol ganzhuur: olon ulsyn sudalгаа (Mongolian Kanjur: international studies). Erenkhiredaktor: S. Chuluun (Editor-in-chief: S. Chuluun). Ulaanbaatar, 2017. 353 p. ISBN: 978-99978-976-3-3.  
(BSBS E1.1.030, Lib. 183.01/CH)

同図書館は、写本 Tanjur 3巻も所蔵し、V. L. Uspensky が調査報告している<sup>163</sup>。

モンゴル語資料全般についても詳細な分類目録が東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA研) より出版された。

### 3-005.

Catalogue of the Mongolian manuscripts and xylographs in the St. Petersburg State University Library = Katalog mongol'skikh rukopisei i ksilografov vostochnogo otdela nauchnoï biblioteki Sankt-Peterburgskago gosudarstvennogo universiteta. Comp. by Vladimir L. Uspensky. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 2001. xv, 530, 186 p. ISBN 4872978013.  
(BSBS E2.2.15.4.002, Lib. R929.53/US)

このコレクションを構成する収集者は、前述の Kowalewski と Popov の他、Vasily Pavlovich Vasilyev (1818-1900 : 1851年カザン大学教授、移管に伴い1855年サンクトペテルブルク大学教授、ロシア科学アカデミー会員)<sup>164</sup>、K. F. Golstunsky (1831-1899 : モンゴル学者、サンクトペテルブルク大

<sup>163</sup> Uspensky 1998.

<sup>164</sup> Vasilyevの業績、評伝等の著作に関する書誌情報については、BSBS,

学教授)<sup>165</sup>である。Pozdneev のコレクションには写本 Kanjur 以外の資料もあり、1875年ロシア南部のアストラハンで収集したオイラト語の資料と1876年より1878年にかけてモンゴル探検で収集した資料がある。Vasilyev コレクションには清朝康熙帝（在位1661-1722）の皇十七子である允礼（1697-1738）<sup>166</sup>の蔵書もあり、モンゴル語写本が含まれている。

東洋語写本・版本に関する最新の情報が次の図書により知られ、チベット語とモンゴル語資料については Uspensky が解説している。

### 3-006.

Rukopisi i ksilografiy na vostochnykh iazykakh v Nauchnoĭ biblioteke im. M. Gor'kogo SPBGU (Manuscripts and woodblock prints in Asian languages at the Scientific Library of Saint Petersburg State University). Pod red. V. L. Uspenskogo. Sankt-Peterburg: Filologicheskii fakul'tet SPBGU, 2014. 175, [1] p. ISBN 978-5-8465-1450-8.

[https://www.orient.spbu.ru/books/Rukopisi\\_i\\_ksilografiy\\_na\\_vostochnykh\\_yazykah/index.html](https://www.orient.spbu.ru/books/Rukopisi_i_ksilografiy_na_vostochnykh_yazykah/index.html)

(BSBS D2.2.20.3.002, Lib. 022.2/US)

本書には英文サマリーがあり<sup>167</sup>、コレクションの概要を要領よく解説しているので至便である。Vasilyev は 1841年から 1850年まで北京に滞在し、梵・蔵・蒙・満・漢語を学びながら、師である Kowalewski が収集できなかったモンゴル語版本の貴重書を多く購入し、カザン大学へ送付していたが、本サマリーによると、漢語大蔵経についても、215巻の Southern Chinese edition [南蔵]を入手したことが知られる。Vasilyev は 700巻の Beijing edition [北蔵]の購入を目論んだが、財政上の理由で南蔵を購入する他なかった<sup>168</sup>。南蔵は洪武と永楽の二種あるが、現存する洪武南蔵が唯一確認されているのは四川省図書館所蔵の一具<sup>169</sup>であるので永楽南蔵

---

M1.20.010を参照。

<sup>165</sup> Golstunsky の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については BSBS, M4.005 を参照。

<sup>166</sup> チベット仏教徒であった允礼については V. L. Uspensky の著書がある。Uspensky 1997.

<sup>167</sup> [http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1499](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1499)

<sup>168</sup> 文献番号 3-006, p. 171.

<sup>169</sup> Nozawa 1998, p. 149.



と推測されるが、詳細は不明である。

前述の William Wright 寄贈サンスクリット語仏典写本4点については、近年サンクトペテルブルク大学の Sergei Sergeevich Tavastsherna が、4点中2点、Saddharmalaṅkāvatāra（インド語写本No.27）と Jātakamāla（インド語写本No.29）について報告している<sup>170</sup>。

#### 4. エルミタージュ美術館（Hermitage Museum）

エルミタージュ美術館には、美術品以外に、トルファン出土の23点の写本・版本の断片が所蔵されている。内訳は、漢語写本10点、片面がサンスクリット語のテキストで、裏面が漢語のテキスト1点、ウイグル語写本断片7点、ウイグル語版本断片4点、チベット語とシリア語のテキストの断片各1点である。これらは、1902年から1914年にかけて4回行われたドイツのトルファン探検で収集された将来品の一部である。元は展示目的でベルリン民族学博物館（Berlin Museum für Völkerkunde、現在の Museum für Asiatische Kunst）に所蔵されていたもので、第2次世界大戦下で散逸したと見なされていたが、エルミタージュ美術館に保管され、近年再発見された資料である。以下の論文にて全テキストの写真版が出版され、研究報告されている。漢語仏典の同定には、西脇常記が協力している。

##### 4-001.

Nikolai Pchelin, Simone-Christiane Raschmann: Turfan manuscripts in the State Hermitage; a rediscovery. In: *Written Monuments of the Orient*, 2016, 2, 3-43.

<http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3209>

(BSBS G6.3.1.1.015)

この他、Kozlov収集のハラホト出土西夏語版本仏典2点と、仏画として保管されている美術品に付された西夏語テキストについて研究報告されている<sup>171</sup>。

<sup>170</sup> Tavastsherna 2017.

<sup>171</sup> BSBS, F6.2.4.1.2 参照。

5. 国立宗教史博物館（State Museum of the History of Religion）

本博物館には21点のモンゴル語写本・版本が所蔵され<sup>172</sup>、下記の目録が出版されているが、筆者未見の資料であり、詳細は不明である。

**5-001.**

Aleksey G. Sazykin: *Kratkoe opisanie kollektzii mongol'skikh rukopisei i ksilografy, khраниashcheisia v Gosudarstvennom Musee istorii religii i ateizma* [Brief description of the Mongolian manuscripts and xylographs in the State Museum of the History of Religion and Atheism]. In: *Musei v ateisticheskoi propagande*, (Leningrad, 1982), 101-112.

(BSBS [E2.2.15.3.001])

A. G. Sazykin は、サンクトペテルブルク地区の東洋写本研究、サンクトペテルブルク国立大学、国立宗教史博物館に所蔵されているブリヤートで作成されたモンゴル語の版本と版画の目録も編纂しているので、この目録により、国立宗教史博物館のモンゴル語版本の所蔵状況の一端は知られる<sup>173</sup>。

**5-002.**

A. G. Sazykin: *Katalog buriatskikh ksilografirovannykh i litografirovannykh izdanii iz kollektzii Sankt-Peterburga = Catalogue of the Buryat xylographs and lithographs preserved in St. Petersburg's collections*. Kyoto: Kyoto University, 2004. 172 p. (Contribution to the studies of Eurasian languages series, 8)

(BSBS E2.2.15.003, Lib. R929.53/SA)

その他、モスクワのレーリッヒ博物館国際センター写本部（Manuscript Department of the International Centre of the Roerichs Museum）にネパール系サンスクリット語仏典貝葉写本“Gaṇḍavyūhasūtra”が嘗て所蔵され、モスクワ国立大学の Alexey Vigin (b. 1946) により 2013 年に予備的な研究報告がされたが<sup>174</sup>、その後移管されて、現在はモスクワの国立東洋美術館（State

---

<sup>172</sup> Sazykin の報告に基づく。文献番号 1-012, 第 1 冊, p. 7.

<sup>173</sup> 文献番号 5-002, Nos. 236, 245.

<sup>174</sup> Vigin 2013.

Museum of Oriental Art) に所蔵されている<sup>175</sup>。

6. ロシア科学アカデミーシベリア支局・モンゴル学仏教学チベット学研究所 (Institute for Mongolian, Buddhist and Tibetan Studies, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences)

本研究所は、1922年に設立された Buryat Academic Committee を母体とする。1957年、ロシア科学アカデミーシベリア支局が組織されたことにより、本研究所は組織として格上げされ、何度かの改称を経て、1997年に現在の名称となった<sup>176</sup>。本研究所は、仏典をはじめとする多くのチベット語とモンゴル語の資料を所蔵する。

チベット語写本・版本目録としては、次の4点が出版されている。本研究所の名称が Buryat Comprehensive Research Institute の時代に Bidiya Dandarovich Dandaron (1914-1974)<sup>177</sup>により最初の目録が出版された。

#### 6-001.

B. D. Dandaron: Opisanie tibetskikh rukopisei i ksilografov Buriatskogo kompleksnogo nauchno-issledovatel'skogo instituta [Description of the Tibetan manuscripts and xylographs kept at the Buryat Comprehensive Research Institute], 2 vols. Pod red. G. N. Rumiantseva i B. V. Semichova. Moskva, 1960-1965.

(BSBS D2.2.20.4.1.002, Lib. R180.320/DA)

論理学関係の写本・版本の目録は、本研究所のキュレーター、Andrey Aleksandrovich Bazarov (b. 1965) により出版されている。

#### 6-002.

Catalogue of the collection of Tibetan manuscripts and xylographs "Chos grwa" (parts: Tshad ma, Grub mtha') of the Institute of Mongolian, Buddhist and Tibetan Studies of Russian Academy of Sciences (Siberian Branch). Comp. by Andrey Bazarov. Varanasi: Central Institute of Higher Tibetan Studies, 2008. xxviii, 245 p. (Tibeto-Mongolian series,

<sup>175</sup> Mace 2020, p. 2 of 19-3 of 19.

<sup>176</sup> Zorin 2020, p. 142-146.

<sup>177</sup> Dandaron の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については、BSBS, M3.051 を参照。

1) ISBN 978-81-87127-75-8.

(BSBS D2.2.20.4.1.004, Lib. R180.320/BA)

gSung 'bum（全集）コレクションの目録は、Bazarov と Nikolay Vladimirovich Tsyrempilov (b. 1975)<sup>178</sup>により第1冊が出版されたが、入手が困難な資料であり、筆者未見である。

### 6-003.

Andrey Bazarov and Nikolay Tsyrempilov: Catalogue of Tibetan gSung 'bum collection of Centre of Oriental Manuscripts and Xylographs of the Institute of Mongolian, Buddhist and Tibetan studies of Siberian Branch of Russian Academy of Sciences. Ulaanbaatar, 2008. (Monumenta Mongolica, 5)

Vol. 1 (2008): Non-dGe lugs and early dGe lugs sections. 414 p.

(BSBS [D2.2.20.4.1.005])

チベット医学文献の写本・版本の注釈目録は、本研究所の主任研究員 Yumzhana Zhalsanova ZHabor (b. 1959) 女史により出版された。

### 6-004.

IUmzhana Zhalsanovna ZHabor: Annotirovannyi katalog meditsinskoï kollektsii tibetskogo fonda TSentra vostochnykh rukopisei i ksilografv Instituta mongolovedeniia, buddologii i tibetologii SO RAN [Annotated catalogue of the medical collection of the Tibetan holding kept at the Center of the Oriental Manuscripts and Block Prints of the Institute for Mongolian, Buddhist and Tibetan Studies, Siberian Branch of the RAS]. Ulan-Udê: Izd-vo BNTS SO RAN, 2012. 240, [1] p. ISBN 978-5-7925-0353-3.

(BSBS D2.2.20.4.1.007, Lib. R185.42/ZH)

本研究所とアガ・ブリヤート自治区の仏教僧院のコレクションは、2017年に British Library 主宰の "Endangered Archives Project (EAP)" のNo. 1034 として採択され、貴重なチベット語仏典版本 400点がデジタル化され、20,000 画像を集積している。

Preserving Traditional Buryat Book Culture (EAP1034)

<https://eap.bl.uk/project/EAP1034>

---

<sup>178</sup> Zorin 2020, p. 172-174.

(BSBS D2.2.20.4.002)

同様にブリヤートを中心とする西シベリアに所蔵されるプライベートコレクションも EAP813 に採択されて写本・版本のデジタル化が進捗し、画像が公開されている。

Preservation of the disappearing book heritage of Siberian Buddhists (EAP813)

<https://eap.bl.uk/project/EAP813>

(BSBS D2.2.20.4.001)

嘗て Byambin Rinchen (1905-1977)<sup>179</sup>は、ブリヤートの僧院の印刷所が所有する、主にチベット語テキストの版本の目録を Ts. Zhamtsarano より受け取った。この目録は1911年12月に作成された、キリル文字の印刷本である。31件の印刷所が所有する総計1,696点の版本の目録であり、1959年に出版された。ブリヤートの僧院における1911年末までのチベット語と若干のモンゴル語の版本の所蔵状況が知られる目録である。

#### 6-005.

Rinchen: Catalogue of printing blocks of Buddhist monasteries in Transbaikalia. Prepared in December, 1911, by the chancery of Paṇḍita Khampo Lama, head of the Buddhist church, Eastern Siberia. In: Four Mongolian historical records. Ed. and tr. by Rinchen. New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1959. p. 71-121. (Śata-piṭaka series, 11)

(BSBS E2.2.15.5.001, Lib. 186.94/RI)

本研究所在蔵のモンゴル語写本・版本の目録は、Nikolay Tsyrempilov により編纂され、東北大学東北アジア研究センターの叢書として出版された。

#### 6-006.

Annotated catalogue of the collection of Mongolian manuscripts and xylographs M I of the Institute of Mongolian, Tibetan and Buddhist Studies of Siberian Branch of Russian Academy of Sciences (ロシア科学アカデミーシベリア支部モンゴル学・チ

---

<sup>179</sup> Rinchen の業績、評伝等の著作に関する書誌情報については、BSBS, M4.024 を参照。

ベット学・仏教学研究センターモンゴル語写本・版本 MI コレクション注釈付目録). Comp. by Nikolay Tsyrempilov. Ed. by Tsymzhit Vanchikova. Sendai: Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2004. xvi, 309 p. (東北アジア研究センター叢書 (CNEAS monograph ser.), 17)

M II: Sendai: Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2006. x, 412 p. (東北アジア研究センター叢書 (CNEAS monograph ser.), 24) ISBN 4-901449-38-9. (BSBS E2.2.15.5.1.003, Lib. R929.55/TS)

本目録は分類目録であり、第1冊には798点、第2冊には852点が収録されている。仏教経典 (Buddhist canon) はM IIに収録され、モンゴル語タイトル、対応するチベット語タイトル、写本・版本の別、コロフォンの翻字、関連する他の目録番号、用紙、フォーマット、インクの色等を表記し、注記事項を記述する。モンゴル語、チベット語、サンスクリット語のタイトル索引、人名と地名の索引、蔵書印と図像の写真版を付す。

前述したモンゴル語黒字写本 (Black manuscript) Kanjur については、下記の報告があり、簡略目録を収録する。

#### 6-007.

Kirill Alekseev, Nikolay Tsyrempilov, Timur Badmatsyrenov: Ulan-Ude manuscript Kanjur; an overview, analysis and brief catalogue. In: Buddhist Studies Review, 33, 1-2 (2016), 241-269.

<https://spbu.academia.edu/KirillAlekseev>

(BSBS E1.2.2.3.003)

このKanjurは113巻中4巻を欠くセットである。写本の成立年代は金字写本 (Golden manuscript) Kanjur の成立年1629年より版本 Kanjur が開版される1720年までの間で、コロフォンによると北京で書写されたようである。

本研究所在所属する科学アカデミーは、以下の紀要を Online で刊行している。

Vestnik Buriatskogo Nauchnogo TSentra Sibirskogo Otdeleniia Rossiiskoi Akademii Nauk (Bulletin of the Buryat Scientific Center of the Siberian Branch of the Russian Academy of Sciences), Ulan-Udë.

<http://eng.publisher.bscnet.ru/>

仏教研究の Online Journal の出版も 2018 年より始まり、現在第 4 号（2021 年）まで刊行されている。

Buddologicheskie issledovaniia: religiovedcheskii al'manakh [Buddhological Studies: Religious Almanac].

[http://publisher.bscnet.ru/?page\\_id=2102](http://publisher.bscnet.ru/?page_id=2102)

ブリヤート共和国の国立博物館にもモンゴル語とチベット語の写本が所蔵されているようで、以下の目録の刊行が現在 Nikolay Tsyrempilov が在職するカザフスタンの Nazarbayev University の Website で案内されている<sup>180</sup>。

#### 6-008.

Nikolay Tsyrempilov, Jargal Badagarov: Annotated catalogue of Mongolian and Tibetan manuscripts of National Museum of Republic of Buryatia, Russia. 400 p. (In preparation)

7. ロシア科学アカデミー・カルムイク科学研究センター（Kalmyk Scientific Center : 旧名称 Kalmyk Institute for Humanities） of the Russian Academy of Sciences)

本センターは、1941年に設立された Kalmyk Research Institute of Language, Literature and History が何度か名称変更し、1988年に格上げされてロシア科学アカデミーの組織下に置かれ、2016年より現在の名称となった<sup>181</sup>。

同国には、チベット語、モンゴル語、オイラト語の仏典写本・版本が所蔵されているが、最も多く所蔵するのが本センターである。21世紀を前後する頃よりモスクワのロシア科学アカデミー東洋学研究所の K. V. Orlova、そして本センターのキュレーターであり、カルムイク共和国を代表するチベット学者 D. N. Muzrayeva (b. 1963)<sup>182</sup> 両女史の研究により、それら資料の所蔵状況と概要が知られるようになった。

<sup>180</sup> 2021年12月14日現在。  
<https://research.nu.edu.kz/en/publications/annotated-catalogue-of-mongolian-and-tibetan-manuscripts-of-natio>

<sup>181</sup> 本研究センターの Website 参照。 <http://www.kigiran.com/node/607>

<sup>182</sup> Zorin 2020, p. 179.

K. V. Orlova は、1996年に103点のオイラト語の写本・版本の解題目録を出版し、翌1997年にはモンゴル語の写本・版本の概要を報告している。

**7-001.**

K. V. Orlova: Opisanie kolleksii rukopisei i ksilografov, khраниashchikhsia v nauchnom arkhive Kalmytского Instituta gumanitarnykh i prikladnykh issledovanii [Description of the manuscript and xylograph collection kept at the archives of the Kalmyk Institute for Humanities and Applied Research]. In: Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae, 49 (1996), 139-160.

(BSBS E2.2.15.6.1.001)

**7-002.**

K. V. Orlova: The Mongolian collection in the archives of the Kalmyk Institute for Humanities and Applied Research. In: Mongolian Studies, 20 (1997), 85-118.

(BSBS E2.2.15.6.1.002)

同女史は、2002年にカルムイク共和国内3機関、本センターと Ethnographic Museum、National Archives が所蔵するモンゴル語写本・版本の解題目録を出版しているが、筆者未見の資料である。

**7-003.**

K. V. Orlova: Opisanie mongol'skikh rukopisei i ksilografov, khраниashchikhsia v fondakh Kalmykii [Description of the Mongolian manuscripts and xylographs kept in Kalmyk funds]. [Ed. by D. D. Vasilyev]. In: Biulleten' Obshchestva vostokovedov, 5 (Moskva, 2002), 85 p.

(BSBS [E2.2.15.6.1.004])

カルムイク共和国に所蔵されるチベット語とオイラト語の仏典写本・版本については、Muzrayeva が国内各地におけるフィールドワークによる調査を基にした研究を2012年に出版した。

**7-004.**

D. N. Muzraeva: Buddiiskie pis'mennye istochniki na tibetskom i oiratskom iazykakh v kolleksiiakh Kalmykii [Buddhist textual sources in Tibetan and Oirat languages preserved in the collections of Kalmykia]. Elista, 2012. 224 p. ISBN 978-5-94587-518-0.

English summary.



[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1646](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1646)  
(BSBS D2.2.20.5.1.004, Lib. R180.320/MU)

本書の第1部では、カルムイク共和国で最も大規模なコレクションである本センターと、National Museum of Kalmyk Republic、Public Museum of Ketchenery、Baga-Chonosovsky Khurul のコレクションの概要を示し、第2部では、後者2機関のコレクションと 37件のプライベートコレクションの目録を6地区に分類して提供し、人名とチベット語、オイラト語、カルムイク語、サンスクリット語、ロシア語のタイトル索引を付す。

本センター所蔵チベット語写本・版本資料の全体を包含した目録は刊行されていないが、コレクション番号15と8については Muzrayeva により目録が出版されている<sup>183</sup>。

本センターでは、以下の紀要を刊行している。

Vestnik Kalmyshchkoogo Instituta Gumanitamykh Issledovaniï RAN (Bulletin of the Kalmyk Institute for Humanities of the Russian Academy of Sciences).

<https://kigiran.elpub.ru/jour/issue/archive>

2018年より "Oriental Studies" と誌名変更された。

## 8. タタールスタン共和国国立公文書館 (State Archive of the Republic of Tatarstan)

カザン大学東洋学部は1855年サンクトペテルブルク大学に移管され、図書等の資料もすべて移されたことは前述した。しかし、カザンにおいて東洋学関係の写本・版本の収集が停止されたわけではなく、カザン正教会アカデミー (Kazan Theological/Ecclesiastical Academy) では同アカデミーが閉鎖される1921年まで資料収集が継続され、1927年に所蔵資料の大半はアジア博物館に送られた<sup>184</sup>。

本公文書館の資料は、カザン正教会アカデミーから引き継がれた残余の小規模なコレクションであるが、36点のモンゴル語、オイラト語、チ

<sup>183</sup> BSBS D2.2.20.5.1. Kalmyk Scientific Center (Formerly Kalmyk Institute for Humanities), Russian Academy of Sciences, Elista を参照。

<sup>184</sup> Zorin 2020, p. 124.

ベット語の写本・版本を所蔵し、東洋写本研究所の研究員3名により以下の目録が出版されている。

### 8-001.

Anna Turanskaya, Natalia Yakhontova [&] Dmitry Nosov: Collection of manuscripts and xylographs in the State Archive of the Republic of Tatarstan. In: *Written Monuments of the Orient*, 2018, 1, 96-123.

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1651](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1651)  
(BSBS D2.2.20.6.1.001)

### 9. トゥヴァ共和国国立博物館 (National Museum of the Republic of Tuva)

本博物館は、同国の60人の英雄 (Aldan-Maadyr : Sixty Heroes) に因んで名付けられた博物館で、多くのチベット語とモンゴル語の写本・版本を所蔵する。チベット語資料の目録は刊行されていないが、本博物館研究員の Rita Sumba が所蔵資料の概要を報告している<sup>185</sup>。同女史によると、チベット大蔵経は1908年から1910年に開版されたウルガ版 *Kanjur* を所蔵し、20,000点を超えるチベット語写本・版本の80%は仏典や宗教、儀礼に関するテキストである<sup>186</sup>。本博物館の所蔵資料は、今日までほとんど研究されていない<sup>187</sup>。

モンゴル語資料については東洋写本研究所の Aleksey G. Sazykin により以下の簡略目録が出版されている。

### 9-001.

Aleksey G. Sazykin: Catalogue of the Mongolian manuscripts and xylographs preserved in the Library of the Tuvan Ethnological Museum "Sixty Heroes" (Kyzyl). In: *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, 47 (1994), 327-407.

(BSBS E2.2.15.8.1.001)

序論にてコレクションの概要が示され、写本は861点、版本77点、総数938点であり、資料の主体は *Kanjur* 所収仏典である。写本の年代は比

<sup>185</sup> BSBS, D2.2.20.7.1 を参照。

<sup>186</sup> Sumba 2016, 2019.

<sup>187</sup> Zorin 2020, p. 181.

較的新しく、19世紀から20世紀前半である。テキストの内容を22種に分類し、資料番号が列挙されている。本目録にて Kanjur 所収仏典については、Ligeti の目録番号<sup>188</sup>が記載されている。主な所蔵資料は、トゥヴァ国内の僧院やプライベートコレクションから収集されたものであり、東洋写本研究所やサンクトペテルブルク国立大学の所蔵資料の来歴とは異なる。このコレクションの概要は Sazykin の論考により知られる<sup>189</sup>。

トゥヴァ共和国における仏教研究に関連する学術誌には、以下の Online Journal がある。

Novye issledovaniia Tuva (The New Research of Tuva).

<https://nit.tuva.asia/nit/issue/archive>

## 10. ロシア周辺国

リトアニアのヴィリニウス大学図書館 (Vilnius University Library) には、前述の Josef Kowalewski コレクションの残余の数十点が所蔵されている。Kowalewski が、1817年より1824年までヴィリニウス大学で学生時代を過ごしたことから<sup>190</sup>、同氏の家族から寄贈されたものである。漢語写本・版本、満州語写本・版本、モンゴル語写本・版本とチベット語版本であり、以下の目録が出版されている。漢語と満州語の資料に仏典は含まれていない。

### 10-001.

K. Alexeev & K. Yachontov: The J. Kowalevski's collection of Chinese, Manchu, Mongolian and Tibetan books in Vilnius. In: Peterburgskoe Vostokovedenie (St. Petersburg Journal of Oriental Studies), 1 (1992), 301-338.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/PV\\_01\\_1992\\_08\\_alexeev\\_yachontov.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/PV_01_1992_08_alexeev_yachontov.pdf)

(BSBS E2.2.12.1.003)

同国カウナスにある国立チュルニョーニス美術館 (M. K. Čiurlionis National Museum of Art) には、チベット語の写本・版本が所蔵されている。

<sup>188</sup> Ligeti 1942.

<sup>189</sup> Sazykin 1996.

<sup>190</sup> Valeev [et al.] 2020, p. 433-434.

このコレクションは、チベット薬学の専門家 Donatas Butkus (b. 1939) が 1970 年より 1971 年にかけて、ブリヤートにて収集した 100 点以上の資料で、版本仏典が多い。カウナスにて多くのチベット語資料を翻訳する Algirdas Kugevičius (b. 1954)<sup>191</sup>により目録が出版されている。

#### 10-002.

Algirdas Kugevičius: A catalogue of Tibetan texts kept at M. K. Čiurlionis National Museum of Art (Kaunas, Lithuania). In: Acta Orientalia Vilnensia, 5 (2004), 242-280.

<https://www.journals.vu.lt/acta-orientalia-vilnensia/issue/view/1519>

(BSBSD2.2.15.2.001)

ウクライナ南部の都市オデッサに市民博物館がある。博物館の名称は、以下論文の英文抄録によると、"Municipal O. V. Bleshchunov Museum of Private Collections" と記述されている。オデッサの起業家がネパール北部、チベットとの国境地帯に位置するムスタン (Mustang) の僧院で発見した6点のチベット語仏典写本を所蔵する。次の論文で同館所蔵のチベット語訳『金剛般若経』をはじめとする仏典写本の概要が示され、写本の一部の写真版も提供されている。

#### 10-003.

E. D. Ogneva: <Vadzhrachchkhedika> v strukture Oddesago rukopisnogo sbornika buddiiskikh meditativnykh tekstov (perspektivy issledovaniia) (The Vajracchedikā in the structure of the Odessa manuscript miscellany of Buddhist meditative texts; prospects of study). In: Indii-Tibet: tekst i fenomeny kul'tury. Moskva: IAzyki slavianskoï kul'tury, 2012. p. 200-208, 8 p. of illus. ISBN 978-5-9551-0611-3.

<http://book.ivran.ru/book?id=820&from=990>

(BSBSD2.2.23.1.001, Lib. 180.4/VE)

チベット仏教図像学の専門家 Elena Dmitriyevna Ogneva (b. 1944) は、1 点の写本のコロフォンの記述により 17 世紀早期筆写の写本と推定している。本論考にて他の写本・版本 Kanjur 所収テキスト<sup>192</sup>との比較研究はさ

<sup>191</sup> Zorin 2020, p. 154-155.

<sup>192</sup> Resources for Kanjur & Tanjur Studies.

<https://www.istb.univie.ac.at/kanjur/rktsneu/collections/index.php?id=0>

れていないので、チベット大蔵経の専門家による今後の研究が俟たれる。

本稿では、ロシア国内諸機関に所蔵される仏典写本・版本の主要な目録を中心に検討したが、有益な書誌学的研究は他にもあるので、詳細は BSBS version 3.0 を参照いただきたい。資料の利用という観点から、一部資料は写真版やデジタル版として公開されているが、さらに推進され、研究者にとってアクセスしやすい環境が整備されることが望まれる。

### 参考文献

- Bacot, Jacques 1924. La collection tibétaine Schilling von Canstadt à la Bibliothèque de l'Institut. In: *Journal Asiatique*, 205, 321-348.  
<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k933053.image.f323.langFR>  
(BSBS D2.2.8.1.001)
- Barlow, John S. 1998. Otto O. Rosenberg (1888-1919): brilliant young Russian Buddhistologist. In: *Otto Ottonovich Rosenberg and his contribution to Buddhism in Russia*. Ed. by Karénina Kollmar-Paulenz and John S. Barlow. Wien: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien, Universität Wien. p. 49-63. (*Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde*, 41)  
(BSBS M1.20.016(4), Lib. 180.4/RO)
- Bongard-Levin, G. & Vigasin, A. 1984. *The image of India: the study of ancient Indian civilisation in the USSR*. Tr. from the Russian by Peter Greenwood. Moscow: Progress Publishers. 271 p., illus.  
(BSBS L1.2.18.012, Lib. 185.51/BO)
- Dragunov, A. A., Nevsky, N. A. & Wang, Ching-ju (王静如) 1932. 蘇俄研究院亞洲博物館藏西夏文書籍目錄 (List of Hsi hsia works in the Asiatic Museum of the Academy of Sciences, Leningrad, USSR). In: *Bulletin of the National Library of Peiping* (國立北平圖書館館刊), 4, 3, 367-388.  
(BSBS F6.1.001)
- Emmerick, Ronald E. 1992. *A guide to the literature of Khotan*. 2nd ed. thoroughly revised and enlarged. Tokyo: International Institute for Buddhist Studies. ix, 61 p. (*Studia philologica Buddhica, occasional paper series 3*) ISBN 4-906267-30-0.

<http://id.nii.ac.jp/1153/00000413/>

First published in 1979.

(BSBS F3.1.002.0.1, Lib. 183.974/EM)

Ermakova, T. V. 2014. Kolleksionirovanie buddiiskikh rukopisei v Indiiiskom fonde Aziatskogo museia RAN (1850-1910) (Collecting the Buddhist manuscripts at the Indian depository of the Asiatic Museum, RAS, in 1850-1910th [sic]). In: Pis'mennye Pamiatniki Vostoka, 201-221.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/PPV\\_2\\_21\\_2014\\_13\\_ermakova.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/PPV_2_21_2014_13_ermakova.pdf)

(BSBS B1.2.1.12.001)

Ermakova, T. V. 2015. Buddiiskaia kolleksiia Indiiiskogo fonda IVR RAN kak istochnikovyĭ resurs issledovaniĭ istorii i kultury IUzhnoi i IUgo-Bostochnoi Azii (The Buddhist collection of the Indian manuscript depository of the IOM, RAS as an informative resource for investigations of history and culture of South and South-East Asia). In: Pis'mennye Pamiatniki Vostoka, 2, 86-95.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/PPV\\_2\\_23\\_2015\\_09\\_ermakova.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/PPV_2_23_2015_09_ermakova.pdf)

(BSBS C1.2.15.2.004)

Ermakova, T. V. 2017a. Pis'ma britanskogo vostokoveda Vil' iama Raĭta k I. P. Minaevu (Letters by British Orientalist William Wright to I. P. Minaev). In: Pis'mennye Pamiatniki Vostoka, 14, 1, 68-75.

<http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=content&task=view&id=5511>

(BSBS B1.2.1.12.001)

Ermakova, T. V. 2017b. Pis'ma Deniela Raĭta k I. P. Minaevu (Letters by Daniel Wright to I. P. Minaev). In: Pis'mennye Pamiatniki Vostoka, 14, 2, 97-110.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=&pub=7328](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=&pub=7328)

(BSBS B1.2.1.12.001)

Ermakova, T. V. 2019. Predystoriia katalogizatsii rukopisnogo sobraniia indologa I. P. Minaeva v dokumentakh RNB i materialakh AV IVR RAN (The back story of I. P. Minayeff's Oriental manuscript collection cataloguing (according to documents housed at the Archives Department of the Russian National Library and the Archives of Orientalists, IOM RAS)). In: Pis'mennye Pamiatniki Vostoka, 16, 3, 95-

108.

<http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3582>

(BSBS B1.2.1.12.2.001)

Filliozat, Jean 1945. Catalogue des manuscrits sanskrits et tibétains de la Société Asiatique.

In: *Journal Asiatique*, 233/1941-1942, 1-81.

(BSBS B1.2.1.6.2.001)

Flug, K. K. 1936. *Kratkaia opis' drevnikh buddiiskikh rukopisei na kitaiskom iazyke iz sobraniia Instituta vostokovedeniia Akademii Nauk SSSR* (Short description of ancient Buddhist manuscripts in collections of the Institute for Oriental Studies of the Academy of Sciences). In: *Bibliografiia Vostoka*, 8-9/1935, 96-115.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=6704](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=6704)

(BSBS G5.2.3.004)

Herman-Ważny, Agnieszka, Kriakina, Liubov & Zorin, Alexander 2015. The first Tibetan leaves acquired by the St. Petersburg Academy of Sciences: conservation issues, contents and paper analysis. In: *Written Monuments of the Orient*, 2, 61-75.

<http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3122>

(BSBS D2.2.20.1.017)

Hori, Shin'ichirō 堀伸一郎 2011. ロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵中央アジア出土サンسكريット断片について (Sanskrit fragments from Central Asia at the Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences, St. Petersburg). In: *佛教學* (Journal of Buddhist Studies), 53, 1-24.

(BSBS B1.2.3.8.007)

Hori, Shin'ichirō 2014. From the Kathmandu Valley to the Tarim Basin. In: *From birch bark to digital data: recent advances in Buddhist manuscript research. Papers presented at the Conference Indic Buddhist Manuscripts: The state of the field, Stanford, June 15-19 2009*. Ed. by Paul Harrison and Jens-Uwe Hartmann. Wien: Verlag der Österreichische Akademie der Wissenschaften. p. 257-267. (Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, 80) ISBN 978-3-7001-7581-0.

(BSBS B1.1.002, Lib. 180.4/HA)

Hu-von Hintüber, Haiyan 2006. Some remarks on the Sanskrit manuscript of the

- Mūlasarvāstivāda-Prātimokṣasūtra found in Tibet. In: *Jaina-itihāsa-ratna: Festschrift für Gustav Roth zum 90. Geburtstag*. Hrsg. von Ute Hüsken [et al.] Marburg: Indica et Tibetica Verl. p. 283-337. (Indica et Tibetica, 47)  
<http://prajnaquest.fr/blog/category/sanskrit-manuscripts/>  
 (BSBS B1.2.1.4.1.003, Lib. 129.103/RO)
- Ikuta, Michiko 生田美智子 ed. 2003. 資料が語るネフスキー [Nevskii depicted in various materials]. 大阪：大阪外国語大学. iv, 265 p. (with illus.)  
 (BSBS M5.5.002(5), Lib. 289.3/IK)
- Imaeda, Yoshiro 1981. Note sur le Kanjur de Derge. In: *Tantric and Taoist studies: in honour of R. A. Stein*, 1. Bruxelles: Institut Belge des Hautes Études Chinoises. p. 227-236. (Mélanges Chinois et Bouddhiques, XX)  
 (BSBS D1.2.2.001, Lib. 180.4/ST/1)
- Iuchi, Maho 井内真帆 2011. カラホト出土のカダム派関係写本 (bKa' gdams pa manuscripts discovered at Khara Khoto). In: 佛教学セミナー (Buddhist Seminar), 92, 35-47.  
<https://kyoto-u.academia.edu/Maholuchi>  
 (BSBS D3.1.3.004)
- Jaffè, Richard 2020. Japanese-South Asian Buddhist interactions: Yamagami Sogen, Kimura Nichiki, and Masuda Jiryo at the University of Calcutta. In: 駒澤大學禪研究所年報 (Annual Report of the Zen Institute), 32, 2, 287-304.  
 和訳, 305-319.  
 kzk032-2-14-jaffe1, kzk032-2-15-jaffe2  
 (BSBS L1.2.14.022, L1.2.14.022.1.1)
- Ji, Xianlin 季羨林 1982. 妙法蓮華經. [北京]. 1 portfolio ([2], 1a-137b p.) (民族文化宮図書館蔵梵文貝葉写本, 1)  
 (Lib. C183.301/SA)
- Jiang, Zhongxin 蒋忠新 1988. A sanskrit manuscript of Saddharmapuṇḍarīka kept in the Library of the Cultural Palace of the Nationalities, Beijing: romanized text = 民族文化宮図書館蔵梵文"妙法蓮華經"写本: 拉丁字母転写本. Beijing: China Social Science Publishing House. 16, 440 p.



(Lib. 183.301/SH)

Kara, György 2003. Mediaeval Mongol documents from Khara Khoto and East Turkestan in the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies. In: *Manuscripta Orientalia* 9, 2, 3-40.

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1578](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1578)  
(BSBS E2.2.15.1.017)

Karashima, Seishi 2000. Identification of some Buddhist Sanskrit fragments from Central Asia. In: 創価大学国際仏教学高等研究所年報 (Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University), 3/1999, 213-214.

[http://iriab.soka.ac.jp/orc/Publications/ARIRIAB/index\\_ARIRIAB.html](http://iriab.soka.ac.jp/orc/Publications/ARIRIAB/index_ARIRIAB.html)  
(BSBS B1.2.3.8.3.001)

Katō, Kyūzō 加藤九祚 2011. 完本 天の蛇 ニコライ・ネフスキーの生涯 [Timbar: Biography of Nikolai Nevsky; complete edition]. 東京：河出書房新社. 367 p., portr. ISBN978-4-309-22543-2.

(BSBS M5.5.002, Lib. 829.320/KA)

Klatt, Johannes 2016. *Jaina-Onomasticon*. Ed. by Peter Flügel and Komelius Krümpelmann. Wiesbaden: Harrassowitz. 1012 p. (Jaina studies, 1) ISBN 978-3-447-10584-2.

[https://eprints.soas.ac.uk/23213/1/Fl%C3%BCgel\\_Klatt\\_Life\\_and\\_Work.pdf](https://eprints.soas.ac.uk/23213/1/Fl%C3%BCgel_Klatt_Life_and_Work.pdf)  
(BSBS M1.11.057(2), Lib. R129.751/KL)

Kozlov, P. K. 1923. *Mongoliia i Amdo i mertvyi gorod Khara-Khoto: èkspeditsiia Russkogo geograficheskogo obshchestva v nagomoi Azii: 1907-1909* [Mongolia, Amdo and the dead city of Khara-Khoto: expedition of the Russian Geographical Society in Mountainous Asia: 1907-1909]. Moskva. 328 p.

<http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/V-B-1-67/>  
(B1.2.3.8.4等のKozlovコレクション該当箇所 Lib. 222.6/KO)

和訳：蒙古と青海。西義之訳。東京：白水社，1967。345 p. (西域探検紀行全集，11)

Kumamoto, Hiroshi 熊本裕 1983. *イラン学の現段階 古、中期イラン語研究案内* (The present stage of Iranian studies; an introduction to Old and Middle

- Iranian linguistics). In: 四天王寺国際仏教大学文学部紀要 (Bulletin [of] Faculty of Letters, International Buddhist University), 16, 27-102.  
(BSBS F1.1.007)
- Kumamoto, Hiroshi 熊本裕 1986. コータン語文献概説 [A brief survey of Khotanese literature]. In: 敦煌胡語文献. 東京：大東出版社. p. 101-140. (講座敦煌, 6)  
(BSBS F3.1.005, Lib. 222.81/TO/6)
- Lalou, Marcelle 1951. Études bouddhiques. In: Cinquante ans d'orientalisme français. In: Bulletin de la Société des Études Indochinoises, n. s., XXVI, 4, 477-481.  
(BSBS L11.2.3.002.)
- Ligeti, Louis 1930. La collection mongole Schilling von Canstadt à la Bibliothèque de l'Institut. In: *Toung Pao*, 27, 119-178.  
(BSBS E2.2.7.1.001)
- Ligeti, Louis 1942. Catalogue du Kanjur mongol imprimé, 1: Catalogue. Budapest: Société Kőrös Csoma. 345 p. (Bibliotheca Orientalis Hungarica, 3)  
(BSBS E1.2.1.001, Lib. R180.321/LI/1)
- Lo, Chao 羅照 2008. チベット自治区に保存された梵文写本の目録編纂 その二十有余年の紆余曲折 (The cataloguing of Sanskrit manuscripts preserved in the Tibetan Autonomous Region: a complicated process of more than 20 years). 松田和信訳 (Tr. by Kazunobu Matsuda). In: 佛教學セミナー (Buddhist Seminar) 88, 128-117.  
<http://id.nii.ac.jp/1374/00006734/>  
(BSBS, B1.2.1.4.1.005.2)
- Lokesh Chandra 1984. Saddharma-puṇḍarīka-sūtra: Sanskrit manuscript from Tibet. New Delhi: Sharada Rani. 1 vol. (Śāta-pitaka series, 337)  
(Lib. 183.301/SA)
- Lundysheva, Olga, Maue, Dieter & Wille, Klaus 2021. Miscellanea in the Brāhmī script from the Berezovsky and Krotkov collections (IOM, RAS) with an appendix: BΦ-4190. In: *Written Monuments of the Orient*, 7, 1, 3-70; 7, 2, 3-106.  
[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1726](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1726)

- <http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3852>  
(BSBS B1.2.3.8.010)
- Mace, Sonya Rhie 2020. Clearing the course: Folio 348 of the Nepalese Gaṇḍavyūha-sūtra in the Cleveland Museum of Art. In: Religions, 11 (4), 183.  
<https://doi.org/10.3390/rel11040183>  
(BSBS B3.2.4.011)
- Malzahn, Melanie 2007. Tocharian texts and where to find them. In: Instrumenta Tocharica. Ed. by Melanie Malzahn. Heidelberg: Universitätsverlag Winter. p. 79-112. ISBN 978-3-8253-5299-8.  
(BSBS F5.1.019, Lib. 829.990/MA)
- van Manen, Johan 1922. A contribution to the bibliography of Tibet. In: Journal and Proceedings of the Asiatic Society of Bengal, new series, 18, 445-525.  
<https://www.biodiversitylibrary.org/item/99255#page/756/mode/1up>  
(BSBS K5.001)
- Matsuda, Kazunobu 松田和信 1988. ダライラマ13世寄贈の一連のネパール系写本について 『瑜伽論』 「撰決択分」 梵文断簡発見記 [The Nepalese manuscripts donated by the 13th Dalai Lama: the discovery of the Sanskrit fragments of the Viniścayasamgrahanī of the Yogācāra-bhūmi]. In: 日本西蔵学会会報 (Report of the Japanese Association for Tibetan Studies), 34, 16-20.  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10810542>  
(BSBS B1.2.1.12.1.010)
- Matsuda, Kazunobu 松田和信 1995. 『解深密経』 における菩薩十地の梵文資料 『瑜伽論』 「撰決択分」 のカトマンドゥ断片より (Sanskrit text of the bodhisattva's ten stages in the Saṃdhinirmocanasūtra: based on the Kathmandu fragment of the Yogācārabhūmi). In: 佛教大学総合研究所紀要 (Bulletin of the Research Institute of Bukkyo University), 2, 59-77.  
[https://archives.bukkyo-u.ac.jp/repository/baker/rid\\_SK000200002457](https://archives.bukkyo-u.ac.jp/repository/baker/rid_SK000200002457)
- Mesheznikov, Artiomi & Shomakhmadov, Safaroli 2020. The updated data on Sanskrit manuscripts of the Serindia collection (IOM, RAS): perspectives of the study. In: Written Monuments of the Orient, 6, 2, 22-42.

<http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3717>

(BSBS B1.2.3.8.008)

Minaev, I. P. 1955. Dnevniky puteshestvii v Indii i Birmu 1880 i 1885-1886. Moskva: Izd-vo Akademii Nauk SSSR. 248 p., portr.

(Lib. 292.509/MI)

Minayeff, I. P. [19- 刊年不明] Travels in and diaries of India & Burma. Tr. by Hirendranath Sanyal. Compared with Russian text by Sunil Bhattacharya. Language ed. by Sailesh Chandra Sen Gupta. Calcutta: Eastern Trading Co. 284 p.

<https://pahar.in/?s=Minayeff>

(Lib. 292.509/MI)

Mironov, N. D. 1908. Spisok "sanskritskikh" rukopisei, pozhertvovannykh "baronom" A. A. fon "Stal'-Golshteinom" [Catalogue of the Sanskrit manuscripts donated from Alexander von Staël-Holstein]. In: Izvestiia Imperatorskoï akademii nauk (Bulletin de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-Petersbourg), 6 seriia, 18, 1303-1309.

<https://www.biodiversitylibrary.org/item/24568#page/377/mode/1up>

Mironov, N. D. 1931. Nyāyapraveśa, 1: Sanskrit text. In: T'oung Pao, 28, 1-24.

Mori, Masao 護雅夫 1966. ソヴィエト連邦科学アカデミーアジア諸民族研究所（レニングラード支所）における東洋学研究 (Oriental studies at the Institute of Asian Peoples (Leningrad Branch), Academy of Sciences, USSR). In: 東洋学報 (Journal of the Research Department of the Toyo Bunko), 49, 2, 76-90.

<http://id.nii.ac.jp/1629/00005057/>

(BSBS L11.2.12.1.007)

Nakami, Tatsuo 中見立夫 2000. サンクト・ペテルブルグのモンゴル語典籍・史料 その収集の歴史と現状 (Mongolian literature and historical source materials preserved in St. Petersburg: history and the present state of their collection). In: 東方學 (Eastern Studies), 99, 144-156.

(BSBS E2.2.15.001)

Nishimura, Minori 西村実則 2012. 荻原雲来と渡辺海旭 ドイツ・インド学と近代日本 [Unrai Ogiwara and Kaikyoku Watanabe: German Indology and modern Japan]. 東京：大法輪閣. 254 p. ISBN 978-4-8046-8203-7.

(BSBS L1.2.14.018, Lib. 180.7/NI)

Nishiwaki, Tsuneki 西脇常記 2016. 中国古典時代の文書の世界 トルファン文書の整理と研究 (The world of documents in the classical age of China: the classification and study of Turfan documents). 東京：知泉書館. xvi, 392 p. ISBN 978-4-86285-239-7.

(BSBS G6.3.011, Lib. 222.80/NI)

Nozawa, Yoshimi 野沢佳美 1998. 明代大蔵経史の研究 南蔵の歴史学的基礎研究 [A study of the Southern Ming editions of Chinese Tripiṭaka: from the viewpoint of historical studies]. 東京：汲古書院. 396 p. ISBN 978-4-7629-2625-9.

(BSBS G1.1.059, Lib. 183.02/NO)

Ogihara, Hirotoši 荻原裕敏 2018. ロシア所蔵トカラ語文献に関する覚え書き (Remarks on the Tocharian manuscript remains housed in the Russian collection). In: 東京大学言語学論集電子版 (Tokyo University linguistic papers), 40, e1-e41.

<http://hdl.handle.net/2261/00076315>

(BSBS F5.2.5.002)

Ol'denburg, S. 1890. Nepal'skie rukopisi v "Peterburgskikh" bibliotekakh" [Nepalese manuscripts in Petersburg libraries]. In: Zapiski Vostochnogo otdieleniia imperatorskago Russkogo arheologicheskogo obshchestva, IV, 383-386.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=7&pub=8682](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=7&pub=8682)

Reprinted in I. P. Minaev & S. Oldenburg: Buddhist texts from Kashgar and Nepal. New Delhi, 1983, 142-146. (Śata-piṭaka series, 322)

(BSBS B1.2.1.12.001)

Ostrovskaiia, E. P. 2014. Buddiiskie rukopisi v sostave Indiiskogo fonda IVR RAN: istoriia kolleksiionirovaniia i perspektivy issledovaniia (Buddhist manuscripts in the Indian collection of IOM RAS: history of collection and perspectives of study). In: Strany i narody Vostoka, 35, 247-274.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/SNV\\_35\\_2014\\_15\\_ostrovskaya.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/SNV_35_2014_15_ostrovskaya.pdf)

(BSBS, B1.2.1.12.1.008, Lib. 220/AK/35)

Ostrovskaiia, E. P. 2015. Vklad N. D. Mironova v izchenie buddiiskoi kolleksiis sobraniia

indišskikh rukopisei Aziatskogo muzeia – IVR RAN (N. D. Mironov's contribution to the description of the Buddhist manuscripts at the Indian collection of Asiatic Museum, IOM, RAS). In: *Pis'mennye Pamiatniki Vostoka*, 1, 153-168.

<http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=content&task=view&id=4213>

(BSBS, B1.2.1.12.006)

[Popova] ポポワ, I. F. 2008a. ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク支部 (SPbF IVRAN) の東洋写本コレクション [Report on the Oriental manuscripts kept at St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences]. In: 東京大学史料編纂所研究紀要 (Research annual of the Historiographical Institute), 18, 48-59.

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/publication/kiyo/18/kiyo0018-I.F.popova.pdf>

(BSBS F1.2.012)

Popova, I. F. 2008b. S. F. Oldenburg's second Russian Turkestan expedition (1914-1915).

In: *Rossiiskie ékspeditsii v Tsentral'nuiu Aziu v kontse XIX – nachale XX veka = Russian expeditions to Central Asia at the turn of the 20th century*. Pod red. I. F. Popova (Ed. by I. F. Popova). Sankt-Peterburg: Slaviiia. p. 158-175. ISBN 978-5-9501-0159-5. 158-175.

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1461](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1461)

(BSBS G5.2.3, Lib. 222.83/PO)

Roerich, G. N. 1960. A bibliography of Soviet Indology, 1918-1958. In: *Journal of Oriental Research*, 27, 48-73.

(BSBS L1.2.18.002)

Rong, Xinjiang 榮新江 2010. <俄藏敦煌文獻> 中的黑水城文獻 [Documents from Heishuicheng published in "Ezang Dunhuang wenxian"]. In: *辨偽与存真 敦煌学論集 (Essays on Dunhuang studies)*. 上海: 上海古籍出版社. p. 165-180. ISBN 978-7-5325-5442-3.

(BSBS G5.2.3.016, Lib. 222.81/EI)

Salemann, Carl 1905. Spisok materialam TS. Zhamtsaranova i B. Baradiina, 1903-1904 [List of materials collected by Ts. Zhamtsarano and B. Baradiyn]. In: *Bulletin de la Classe Historico-Philologique de l'Académie Impériale des Sciences de Saint-*

- Pétersbourg, 22, 3, 49-84 = *Mélanges Asiatiques*, 12 (1902-1906), 1906, 319-354.  
<https://archive.org/details/izvestiiaimpera5221905impe/page/n491/mode/2up>  
[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=8366](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=8366)  
 (BSBS E2.2.15.1.004)
- Sazykin, Aleksej G. 1995. Preface to the catalogue of Mongolian manuscripts and xylographs in the Institute of Oriental Studies of the Academy of Sciences of the USSR, vol. 1 (Moscow 1988). English translation and edition of the Russian preface (pages 6-27) by John R. Krueger, William V. Rozycki, Robert G. Service. Bloomington: Mongolia Society. 28 p. ISBN 910980-57-8.  
 (BSBS E2.2.15.1.001.1.1, Lib. 222.6/SA)
- Sazykin, Aleksej G. 1996. The collection of Mongolian manuscripts and xylographs in the Ethnological Museum of the Republic of Tuva in Kyzyl. In: *Manuscripta Orientalia*, 2, 2, 44-49.  
[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/p\\_mo\\_2\\_2\\_1996\\_06\\_sazykin.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/p_mo_2_2_1996_06_sazykin.pdf)  
 (BSBS E2.2.15.8.1.003)
- Schmidt, I. J. 1845. *Bka' 'gyur gyi dkar chag: oder, Der Index des Kandjur*. Hrsg. von der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften u. bevoorwortet. St. Petersburg. 215 p.  
[https://books.google.co.jp/books?id=2WIPAAAAQAAJ&printsec=frontcover&hl=ja&source=gb\\_s\\_ge\\_summary\\_r&redir\\_esc=y#v=onepage&q&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=2WIPAAAAQAAJ&printsec=frontcover&hl=ja&source=gb_s_ge_summary_r&redir_esc=y#v=onepage&q&f=false)  
 (BSBS D1.2.2.001, Lib. R180.321/SC)
- Sekio, Shirō 關尾史郎 2001. ロシア、サンクト＝ペテルブルグ所蔵敦煌文献中のトゥルフアン文献について [Survey of the Turfan texts among the Dunhuang documents kept in St. Petersburg, Russia]. In: 敦煌文献の総合的・学際的研究. Niigata. p. 40-49.  
 平成 12 年度新潟大学プロジェクト推進経費（学際的研究プロジェクト）研究成果報告書  
 (BSBS G5.2.3.012, Lib. 222.80/SE/1)
- Shcherbatskoï, F. I. (Stcherbatsky, Th.) 1912. *Kratkiĭ Otchet o komadirovke v Indii prof. F. I. Shcherbatskogo* [Brief report on the trip to India by Prof. F. I. Stcherbatsky]. In: *Izvestiia Russkogo Komiteta dlia izcheniia Srednei i Vostochnoi Azii v*

istoricheskoy, arkheologicheskoy, lingvisticheskoy i etnograficheskoy otnosheniya, ser. 2, 1, 70-75.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=9758](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=9758)

Sims-Williams, Nicholas 1981. The Sogdian fragments of Leningrad. In: Bulletin of School of Oriental and African Studies, 44, 2, 231-240.

(BSBS F2.2.5.003)

Stcherbatsky, Th. 1924. Prof. Dr. O. Rosenberg: eine biographische Skizze. In: Otto Rosenberg: Die Weltanschauung des modernen Buddhismus in fernem Osten. Aus dem Russischen übersetzt von Ph. Schaeffer. Heidelberg: In Kommission bei O. Harrassowitz, Leipzig. p. 44-47. (Materialien zur Kunde des Buddhismus, 6)

(BSBS M1.20.016(1))

Sumba, Rita P. 2016. Tibetskie rukopisi i ksilografy v fondakh Natsional'nogo muzeia im. Aldan Maadyr Respubliki Tuva [Tibetan manuscripts and xylographs in the collection of National Museum of Aldan Maadyr of Republic of Tuva]. In: Kinship in the Altaic world: proceedings of the 48th Permanent International Altaistic Conference, Moscow 10-15 July, 2005. Ed. by Elena V. Boikova & Rostislav B. Rybakov. Wiesbaden: Harrassowitz. p. 305-309. (Asiatische Forschungen, 150) ISBN 3-447-05416-6.

(BSBS D2.2.20.7.1.001, Lib. 829.500/BO)

Sumba, Rita P. 2019. Pis'mennye istochniki na tibetskom iazyke iz fondov Natsional'nogo muzeia Tuvy (Written sources in Tibetan language in the collection of the National Museum of the Republic of Tuva). In: Novye issledovaniia Tuvy (The New Research of Tuva), 2, 128-138.

<https://doi.org/10.25178/rit.2019.2.11>

(BSBS D2.2.20.7.1.002)

Takata, Tokio 高田時雄 2012. ロシア科学アカデミー東洋寫本研究と『東洋の文獻遺産』誌など [Brief guide to the Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences and "Written Monuments of the Orient", and other periodicals]. In: 東方學 (Eastern Studies), 123, 141-147.

[https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/IOR\\_RAS.pdf](https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/IOR_RAS.pdf)



(BSBS L11.2.12.1.010)

Takata, Tokio 高田時雄 2016. A note on Yabuki Keiki's list of Dunhuang Buddhist manuscripts from the Oldenburg collection. In: Sergeĭ Fedorovich Ol'denburg: uchenyi i organizator nauki. Sost. i otv. red. I. F. Popova. Moskva: Nauka – Vostochnaia literature. p. 306-312. ISBN 978-5-02-039766-8.

(BSBS G5.2.3.021, Library 180.4/OL)

Tanaka, Ryōshō 田中良正, Cheng, Zheng 程正, 2014. 敦煌禪宗文獻分類目録 [The classified catalogue of the Zen Buddhist texts from Dunhuang]. 東京：大東出版社. 320 p. ISBN 978-4-500-00768-4.

(BSBS G5.3.2.001, Lib. R222.80/TA)

Tavastsherna, S. S. 2017. Dve nepal'skie rukopisi iz rukopisnogo fonda vostochnogo otdela nauchnoĭ biblioteki imeni M. Gor'kogo Sankt-Peterburgskogo gosudarstvennogo universiteta = Two manuscripts from Nepal in the library (Oriental branch) of St. Peterburg State University. In: Rossiĭskie gimalaĭskie issledovaniia; vchera, segodnia, zavtra; sbornik nauchnykh stateĭ (Russian Himalayan research; past, present, future). Pod redaktsiei L. IA. Borkina (Ed. by L. J. Borkin). Sankt-Peterburg: Izd-vo "Evropeiskii Dom". p. 108-110. ISBN 978-5-8015-0387-5.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=3625](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=3625)

(BSBS B1.2.1.12.3.002, Lib. 225.8/BO)

Toda, Hirofumi 戸田宏文 1989-1991. Saddharmapuṇḍarīkasūtra Nepalese manuscript (北京民族文化宮圖書館藏). In: 徳島大学教養部倫理学科紀要, 17-21.

(Lib. 183.301/SA)

Toda, Hirofumi 戸田宏文 1997. 法華経原典研究の現況と課題 [Present state and difficulties encountered in research on the Saddharmapuṇḍarīkasūtra]. In: 佛教大学総合研究所報, 13, 13-16.

(BSBS B3.2.2.003)

Umemura, Hiroshi 梅村坦 1980. 敦煌探検・研究史 [A history of the expeditions to Dunhuang, and studies on Dunhuang]. In: 敦煌の自然と現状. 東京：大東出版社. p. 127-241. (講座敦煌, 1)

(BSBS G5.1.003, Lib. 222.81/TO/1)

Uspensky, Vladimir L. 1996. Old Tibetan and Mongolian collections in the libraries of St. Petersburg. In: *Asian Research Trends*, 6, 173-184.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=9783](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=9783)  
(BSBS D2.2.20.001)

Uspensky, Vladimir L. 1997. Prince Yunli (1697-1738): Manchu statesman and Tibetan Buddhist. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa. viii, 140 p. (p. 89-140 facsimiles)

(Lib. 186.95/US)

Uspensky, Vladimir L. 1998. Tri rukopisnykh toma mongol'skogo "Dandzhura" iz biblioteki Sankt-Peterburgskogo universiteta [Three manuscript volumes of the Mongolian Tanjur in the St. Petersburg University Library]. In: *Mongolica*, 4, 17-19.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/a\\_ustensky\\_1998.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/a_ustensky_1998.pdf)  
(BSBS E1.2.3.3.001, Lib. 222.6/MO/4)

Uspensky, Vladimir L. 2007. Mongol'skie rukopisi i ksilografy, postupivshie v Sankt-Peterburgskii universitet ot A. V. Popova [Mongolian manuscripts and xylographs acquired by St. Petersburg University from A. V. Popov]. In: *Mongolica*, 7, 83-86.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=5&pub=2793](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=5&pub=2793)  
(BSBS E2.2.15.4.008)

Utz, David Anthony 1980. A survey of Buddhist Sogdian studies. Tokyo: Reiyukai Library. 25 p. (*Bibliographia philologica Buddhica*, series minor 3) ISBN 4-906267-05-X.

<http://id.nii.ac.jp/1153/00000514/>  
(BSBS F2.1.001, Lib. 183.978/UT)

Valeev, R. M. [et al.] 2020. Biografiia i nauchnoe nasledie vostokoveda O. M. Kovalevskogo: po materialam arkhivov i rukopisnykh fondov (Biography and academic legacy of Orientalist Józef Kowalewski: based on materials from archives and manuscript collections). Sankt-Peterburg: Izd-vo "Peterburgskoe Vostokovedenie". 440 p. ISBN 978-5-85803-537-4.

(BSBS M4.003(15))

- Vigasin, Alexey 2013. A unique Gaṇḍavyūhasūtra manuscript in Moscow: a preliminary report. In: *Bulletin d'Études Indiennes*, 31, 253-265.  
[https://www.academia.edu/35534527/A\\_unique\\_Gandavyuha\\_Manuscript\\_in\\_Moscow\\_Bulletin\\_detudes\\_indiennes\\_31.2013](https://www.academia.edu/35534527/A_unique_Gandavyuha_Manuscript_in_Moscow_Bulletin_detudes_indiennes_31.2013)  
(BSBS B3.2.4.011)
- Vorob'ev-Desiatovskii, V. S. 1954. Sbranie indīiskikh rukopisei Instituta vostokovedeniia Akademii Nauk SSSR [Collection of the Indian manuscripts kept at the Institute of Oriental Studies of the Academy of Sciences of USSR]. In: *Uchenye Zapiski Instituta Vostokovedeniia*, 9, 128-145, plates.  
[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/p\\_uchenye\\_zapiski\\_ivan\\_IX\\_1954\\_05\\_vorobyov-desyatovsky.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/p_uchenye_zapiski_ivan_IX_1954_05_vorobyov-desyatovsky.pdf)  
(BSBS C1.2.15.2.002)
- Vorobyova-Desyatovskaya, Margarita I. 1995. The S. E. Malov collection of manuscripts in the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies. In: *Manuscripta Orientalia*, 1, 2, 29-39.  
[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1225](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1225)  
(BSBS B1.2.3.8.2.001)
- Vorobyova-Desyatovskaya, Margarita I. 2006. The Central Asian manuscript collection of the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of the Russian Academy of Sciences. Tr. by Jan Nattier. In: 創価大学国際仏教学高等研究所年報 (Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhismology at Soka University), 9/2005, 61-78.  
<http://iriab.soka.ac.jp/publication/aririab.html>  
(BSBS B1.2.3.8.003)
- Vostrikov, Andrei Ivanovich 1933. K bibliografii tibetskoī literatury. In: *Bibliografiia Vostoka*, 2-4, 19-45.  
[http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/BV\\_2-4\\_1933\\_04\\_vostrikov.pdf](http://www.orientalstudies.ru/rus/images/pdf/journals/BV_2-4_1933_04_vostrikov.pdf)  
(BSBS K5.002)
- Vostrikov, Andrei Ivanovich 1935-1937. Some corrections and critical remarks on Dr. Johan van Manen's contribution to the bibliography of Tibet. In: *Bulletin of the*

School of Oriental and African Studies, VIII, 51-76.

(BSBS K5.002)

Vostrikov, Andreĭ Ivanovich 2007. *Tibetskaia istoricheskaia literatura. Sostavlenie, kommentarii* A. V. Zorin. Reprint. Sankt-Peterburg: Peterburgskoe Vostokovedenie. 336 p. (Orientalia) ISBN 5-85803-347-9.

First published in 1962. Bibliotheca Buddhica, 32. Date of preface written by Vostrikov: 1936.

[http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1119](http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1119)

(BSBS D3.2.001.0.1, Lib. 186.01/VO)

英訳 : Tibetan historical literature. Tr. by Harish Chandra Gupta. Calcutta, 1970. vi, 278 p. (Soviet Indology series, 4)

[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=669](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=669)

(BSBS D3.2.001.1.1, Lib. 186.01/VO)

Walravens, H. & Zorin, A. 2016. Two archival documents on Tibetan and Mongolian texts preserved at the St. Petersburg Academy of Sciences by the end of the 18th century and not included in Jährig's catalogue. In: *Zentralasiatische Studien*, 45, 659-676.

(BSBS D2.2.20.1.019)

Walravens, Hartmut & Sizova, Alla 2018. Die Tibetischen Anfangsgründe des Translateurs Johann Jährig (1793). In: *Zentralasiatische Studien*, 47, 29-109.

Wang, Qilong & Deng, Xiaoyong 2014. *The academic knight between East and West: a biography of Alexander von Staël-Holstein*. Singapore: Cengage Learning Asia. vi, 277 p. ISBN 978-981-4510-45-5.

(BSBS M1.20.014(5), Lib. 180.4/ST)

中国語版 : 鋼和泰學術評伝. 北京 : 北京大学出版社, 2009. 2, 342 p., [12] p. of illus. ISBN 787301156612.

Wright, Daniel 1877. *History of Nepāl*. Tr. from the *Parbatiyā* by Munshī Shew Shunker Singh and Shrī Gunānand. With an introductory sketch of the country and people of Nepāl. Cambridge: University Press. xv, 324 p.

Reprinted in 1983 and 1993.

(Lib. 225.8/WR)

Yabuki, Keiki 矢吹生 [慶輝] 1917. 露都ペトログラードに於ける古経跋及疏讚類 [Colophons of the old manuscripts of Buddhist sutras, commentaries and Buddhist eulogies found at the capital of Russia, Petrograd]. In: 宗教界, 13 (5), 407-409.

英文タイトルは、Takata 2016に準じた。

(BSBS G5.2.3.021)

Yabuki, Keiki 矢吹慶輝 1917-1918. シュタイン氏蒐集燉煌地方出古寫佛典ロータグラフ解説目録 [Descriptive catalogue of rotographs of Buddhist manuscripts collected by Sir Stein from Dunhuang]. In: 宗教研究, 2, 5 (1917), 169-185; 2, 6 (1917), 185-196; 2, 8 (1918), 153-172.

Book format: Tokyo, 1917. 50 p.

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/944218>

(BSBS M6.0032a)

Yamaguchi, Susumu 山口益 1954. フランス佛教學の五十年 [Fifty years of Buddhist studies in France]. 京都：平楽寺書店. 4, 182 p.

(BSBS L1.2.8.003, Lib. 180.7/YA)

Yoshida, Yutaka 吉田豊 1986. ソグド語文献 [Sogdian literature]. In: 敦煌胡語文献. 東京：大東出版社. p. 185-204. (講座敦煌, 6)

(BSBS F2.1.005, Lib. 222.81/TO/6)

Yoshida, Yutaka 吉田豊 1991. ソグド語仏典解説 (Buddhist literature in Sogdian). In: 内陸アジア言語の研究 (Studies on the Inner Asian Languages), 7, 95-119.

<http://hdl.handle.net/11094/18757>

Supplement in 内陸アジア言語の研究 (Studies on the Inner Asian Languages), 8 (1993), 135-138.

<http://hdl.handle.net/11094/20423>

(BSBS F2.1.006)

Yoshida, Yutaka 吉田豊 2001. On the Sogdian fragments of the St. Petersburg collection. In: Issues in Eurasian languages, 1: On the materials from the collection of the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences. Ed. by Shōgaito Masahiro [&] Fujishiro Setsu. Kyoto: Department of

- Linguistics, Faculty of Letters, Kyoto University. p. 105-117. (Contribution to the studies of Eurasian languages series, 3)  
(Lib. 829.500/SH/1)
- Yoshida, Yutaka 吉田豊 2015a. A handlist of Buddhist Sogdian texts. In: 京都大学文学部研究紀要 (Memoirs of the Faculty of Letters, Kyoto University), 54, 167-180.  
<http://hdl.handle.net/2433/197456>  
(BSBS F2.1.006.0.1)
- Yoshida, Yutaka 吉田豊 2015b. Sogdian literature i. Buddhist. In: Encyclopædia Iranica, online edition 2015.  
<http://www.iranicaonline.org/articles/sogdian-literature-01-buddhist>  
(BSBS F2.1.011)
- Yuyama, Akira 1970. A bibliography of the Sanskrit texts of the Saddharma-puṇḍarīkasūtra. Canberra: National University Press. xxxv, 115 p. (Oriental monograph series, 5) ISBN 0-7081-0840-7.  
<https://openresearch-repository.anu.edu.au/handle/1885/114961>  
(BSBS B3.2.2.001, Lib. R183.308/YU)
- Yuyama, Akira 1976. Prajñā-pāramitā-ratna-guṇa-saṃcaya-gāthā (Sanskrit recension A). Ed. with an introduction, bibliographical notes and a Tibetan version from Tunhuang. Cambridge: Cambridge University Press. lxxii, 214 p.  
Bibliographical notes, xxiii-liv.  
(BSBS B3.2.1.3.001, Lib. 183.201/YU)
- Zorin, Alexander 2015. The history of the first Tibetan texts acquired by the St. Petersburg Academy of Sciences in the 18<sup>th</sup> century. In: 国際仏教学大学院大学研究紀要 (Journal of the International College for Postgraduate Buddhist Studies), 19, 1-43.  
<http://doi.org/10.15056/00000336>  
(BSBS D2.2.20.1.016)
- Zorin, Alexander & Sizova, Alla 2019. On the history of the formation and processing of the collection of Tibetan texts from Khara-Khoto at the IOM, RAS. In: Written Monuments of the Orient, 2, 3-18.  
[http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com\\_publications&Itemid=75&pub=1676](http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=1676)

(BSBS D5.2.004.1.1)

Zorin, Alexander 2020. Tibetan studies in Russia: a historical sketch. Tokyo: International Institute for Buddhist Studies of the International College for Postgraduate Buddhist Studies. 278 p. (Studia philologica Buddhica, monograph series, 38)

(BSBS L3.053, Lib. 186.01/ZO)

<キーワード>

仏教写本、仏教版本、目録、解題、書誌研究

## Summary

# An Overview of the Collections of Buddhist Manuscript and Blockprint Editions in Russia: With a Focus on Catalogues

Yasuhiro SUEKI

A huge number of Buddhist manuscripts and traditional blockprint editions have survived not only in Asia but also in such Western countries as France, Germany, the United Kingdom, Russia, and the United States of America. The public institutions or private persons in their possession have published numerous catalogues and/or various bibliographical materials dedicated to their collections. Getting the full picture of the entire extent of the bibliographical sources remains, however, a daunting task.

I hope this contribution will offer some assistance in this direction by providing an overview of the collections of Buddhist manuscripts and blockprint editions kept in Russia, where materials in Oriental languages have been collected since the early 18th century. The paper gives relevant information on the catalogues and basic bibliographical tools necessary for making effective use of these collections. Further details are provided in those cases when there is something noteworthy about a particular collection, collector, or catalogue editor.

This survey covers the collections in the possession of the following Russian institutions:

1. Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences, St. Petersburg
2. National Library of Russia, St. Petersburg
3. St. Petersburg State University Library, St. Petersburg
4. Hermitage Museum, St. Petersburg



5. State Museum of the History of Religion, St. Petersburg
6. Institute for Mongolian, Buddhist and Tibetan Studies, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, Ulan-Ude
7. Kalmyk Scientific Center of the Russian Academy of Sciences, Elista
8. State Archive of the Republic of Tatarstan, Kazan
9. National Museum of the Republic of Tuva, Kyzyl

Buddhist manuscripts and blockprint editions are also found in collections held by institutions in neighboring countries which were once part of Tsarist Russia and the Soviet Union. In this paper, I survey the following collections:

- 10.1. Vilnius University Library, Vilnius, Lithuania
- 10.2. M. K. Čiurlionis National Museum of Art, Kaunas, Lithuania
- 10.3. Municipal O. V. Bleshchunov Museum of Private Collections, Odessa, Ukraine

The bibliographical works quoted in this paper are based on version 3.0 of my *Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the Viewpoint of Buddhist Philology* to be released in April 2022.

*Senior Research Fellow,  
Buddhist Bibliography Project,  
International College  
for Postgraduate Buddhist Studies*